

下里見番場遺跡

下里見番場遺跡

下里見安中線(西毛広域幹線道路 高崎安中工区)
社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



下里見安中線(西毛広域幹線道路 高崎安中工区)
社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二二〇
二二一
二二二

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2023

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

下里見番場遺跡

下里見安中線(西毛広域幹線道路 高崎安中工区)
社会资本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

群馬県高崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書では、下里見安中線(西毛広域幹線道路 高崎安中工区)社会资本総合整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査の調査成果を報告します。西毛広域幹線道路は、災害時にも機能する強靭な道路ネットワーク(レジリエンスネットワーク)の構築を目指す群馬県が進めている道路網の一つに位置づけられます。延長27.8kmの本路線は前橋市・高崎市・安中市及び富岡市を結ぶ、広域的な交通を担う幹線道路です。

下里見番場遺跡の発掘調査は、高崎市下里見町番場において令和4年度に実施されました。当地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である高崎市H128遺跡地内に立地し、国道406号を挟み北に隣接する下里見天神前遺跡では古墳時代の竪穴建物や古墳、平安時代の水田などが発見されています。本遺跡からも溝3条を伴う平安時代から近世に至る水田が発見され、古代の人々の暮らしの様子の一端が明らかとなりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県高崎土木事務所、群馬県地域創生部、高崎市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が榛名山南麓地域における歴史の解明に広く役立てられることを念じて、序といたします。

令和5年9月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

- 1 本書は、令和4年度　下里見安中線(西毛広域幹線道路　高崎安中工区)社会资本総合整備(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施された「下里見番場遺跡」の調査成果をまとめた発掘調査報告書である。報告書作成は令和5年度(一)下里見安中線(西毛広域幹線道路　高崎安中工区)社会资本総合整備(活力・重点)事業に伴う埋蔵文化財の整理事業として実施された。
- 2 発掘調査地は群馬県高崎市下里見町に所在する。
- 3 事業主体　　群馬県高崎土木事務所
- 4 調査主体　　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査の期間と体制

発掘調査履行期間	令和5年1月1日～令和5年3月31日
調査期間	令和5年2月1日～令和5年3月31日
調査担当	唐沢友之(主任調査研究員)、麻生敏隆(専門調査役) 遺跡掘削工事請負　吉澤建設株式会社 地上測量委託　アコン測量設計株式会社
- 6 整理履行期間　　令和5年4月1日～令和5年10月2日
整理期間　　令和5年4月1日～令和5年7月31日
- 7 本書の作成分担

編集	佐藤元彦(専門調査役)
デジタル編集	齊田智彦(主任調査研究員)
遺構写真撮影	発掘調査担当者
遺物観察	石器・石製品：関口博幸(上席調査研究員・資料統括) 縄文土器・弥生土器：橋本　淳(主任調査研究員・資料統括) 土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)、陶器・磁器：大西雅広(専門調査役) 金属製品：板垣泰之(専門員(主任))
遺物写真撮影	石器・石製品：関口博幸、陶器・磁器：大西雅広、金属製品：板垣泰之 その他：佐藤元彦
- 8 発掘調査及び報告書作成には、群馬県高崎土木事務所、群馬県地域創生部、高崎市教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。
- 9 出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

凡　例

- 1 本報告書(以下「本書」)に用いた座標・方位はすべて世界測地系(日本測地系2011、測地成果2011)、平面直角座標系第IX系による。

世界測地系による当所の所在は、北緯36度21分26秒、東経138度55分25秒であり、当所における座標北と真北との偏差は+0度32分20.96秒、磁北線の偏角は8度0分である。

また、遺構図中の十字記号は世界測地系(日本測地系2011、測地成果2011)、平面直角座標系第IX系に基づく基準点を示す。X値とY値の整数部末尾3桁を付記した。
- 2 本書に用いた遺構名称は、混乱を避けるため発掘調査終了時点の名称を踏襲した。なお発掘調査時点で4号溝、5号溝とされた遺構は後日の認定により現代遺構の痕跡と判断されていることから、本書では両遺構とも攪乱として扱った。また2号溝は新田2時期あると記述されるが、個々の遺構としての区分はなされていなかったので、旧溝を2-1溝、新溝を2-2溝と記載した。
- 3 遺構の主軸方位は座標北を基準とした。形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。
- 4 遺構の標高は、原則として遺構断面図中に「 $L = ○.○m$ 」と表記した。計測値は主軸方向を縦とし、縦：横：面積の順に記した。主軸方向の不明な遺構については長：短：面積の順での記載を原則とした。
- 5 全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を()付きで表記した。
- 6 本書の個別遺構図版の縮尺は以下を基本とする。

溝の縮尺は、1遺構が1頁に収まることを原則としたため平面図の縮尺は1/120、1/160、1/200と個々に異なったが、断面図の縮尺は1/80を基本とした。
- 7 原則として、本書の遺物図版縮尺は土器類と石斧は1/3、石礫と銭貨は1/1を基本とした。
- 8 本書で使用したトーンは以下のとおりである。

攪乱
- 9 本書における土層註記及び遺物觀察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修1996「新版標準土色帳」に基づく。

なおデジタル現像等のデジタルデータの処理に際して、ICCプロファイルなどICCの規定に基づく色管理はなされていないので、編集時点において被写体本来の色調や色相は担保されない。
- 10 本書で使用した地形図、地勢図、地質図は以下のとおりである。

国土交通省国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」
国土交通省国土地理院20万分の1地勢図「長野」
国土交通省国土地理院2万5千分1「下室田」
国土交通省国土地理院「地理院地図(電子国土Web) Vector (試験公開)」(<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)
<https://maps.gsi.go.jp/vector/#17/36.330606/139.338479&ls=vblank&disp=1>
国土交通省国土地理院「地理院地図(電子国土Web) Vector (試験公開)」gsi20230411133554783.png
国立研究開発法人産業技術総合研究所日本シームレス地図V2 地質図更新日2022年3月11日」
国土交通省国土地理院「地理院地図(電子国土Web) Vector (試験公開)」陰影起伏圖gsi20230405141242491.png
国土交通省国土地理院「地理院地図(電子国土Web) Vector (試験公開)」傾斜量圖gsi2023040615231656.png
- 11 本書で使用したテフラの略号は、下記の通りである。

As-A : 浅間Aテフラ、As-kk : 浅間柏川テフラ、As-B : 浅間Bテフラ、As-C : 浅間Cテフラ、AT : 始良丹沢火山灰

目 次

序		第3章 確認された遺構と遺物	19
例言		第1節 遺跡の概要と基本土層	19
凡例		第1項 遺跡の概要	19
目次		第2項 基本土層	19
挿図目次		第2節 確認された遺構	23
表目次		第1項 遺構の概要	23
写真目次		第2項 確認された遺構	23
		第3節 出土遺物	35
第1章 調査経過と調査の方法	1	第4章まとめ	41
第1節 調査に至る経緯	1		
第2節 調査の経過と方法	1		
第2章 周辺の環境	5	報告書抄録	
第1節 地理的環境	5	写真図版	
第2節 歴史的環境	8	夷付	

挿図目次

第1図 道路の所在	2	第14図 2号溝4(配石)	29
第2図 調査区の位置	3	第15図 3号溝	31
第3図 調査区設定	4	第16図 水田面1	32
第4図 道跡周辺の地質	6	第17図 水田面2	33
第5図 道跡周辺の地形	7	第18図 水田面3(耕作面)	34
第6図 周辺の道路	9	第19図 出土遺物1	35
第7図 下里見番場道路全体図	20	第20図 出土遺物2	36
第8図 下里見番場道路各地点の土層1	21	第21図 出土遺物3	36
第9図 下里見番場道路各地点の土層2	22	第22図 出土遺物4	37
第10図 1号溝	24	第23図 出土遺物5	38
第11図 2号溝1	26	第24図 1号溝の埋没状況	41
第12図 2号溝2(馬蹄痕1)	27	第25図 2号溝の埋没状況	42
第13図 2号溝3(馬蹄痕2)	28	第26図 基本土層と3号溝	43

表 目 次

第1表 周辺道路一覧表	11	第4表 未掲載遺物(縄文時代、弥生時代)	40
第2表 遺物観察表	38	第5表 未掲載遺物(古代)	40
第3表 石材集計	40	第6表 未掲載遺物(中世以降)	40

写真目次

P L . 1

- 1 道跡全景(南西上空から棲名山を望む)
- 2 道跡全景(北東上空から里見台地を望む)

P L . 2

- 1 調査区全景(上空から)
- 2 As-A層確認地点(東から)
- 3 As-A層確認状況(北東から)
- 4 調査区中央付近上層断面(東から)
- 5 調査区中央付近上層断面北部(東から)

P L . 3

- 1 調査区中央付近上層断面南部(東から)
- 2 調査区中央付近上層断面中央(東から)
- 3 1号溝全景(西から)
- 4 1号溝北半(南から)
- 5 1号溝南半(西から)

P L . 4

- 1 1号溝1号水口(東から)
- 2 1号溝2号水口(西から)
- 3 1号溝2号水口(南西から)
- 4 1号溝2号水口(西から)
- 5 1号溝2号水口隔壁断ち切り(東から)
- 6 1号溝2号水口隔壁断ち切り(東から)
- 7 1号溝上層断面北壁(南から)
- 8 1号溝上層断面(東から)

P L . 5

- 1 2号溝全景(北西から)
- 2 2号溝全景(南西から)
- 3 2号溝南半(西から)
- 4 2号溝北端(南から)
- 5 2号溝北端(東から)

P L . 6

- 1 2号溝配石全景(北西から)
- 2 2号溝配石西半(北から)
- 3 2号溝配石東半(北から)
- 4 2号溝配石中央(北から)
- 5 2号溝配石全景(西から)
- 6 2号溝配石東端(西から)
- 7 2号溝配石東端(北から)
- 8 2号溝B断面上層堆積(東から)

P L . 7

- 1 2号溝C断面上層堆積(東から)
- 2 2号溝D断面上層堆積(東から)
- 3 馬蹄痕検出状況(2号溝、東から)
- 4 馬蹄痕検出状況(2号溝、西から)
- 5 馬蹄痕検出状況(1号溝、東から)
- 6 馬蹄痕検出状況(1号溝、北から)
- 7 出土した馬蹄痕(北から)
- 8 馬蹄痕出土状況(北から)

P L . 8

- 1 3号溝全景(南東から)
- 2 3号溝南半(南東から)
- 3 3号溝北半(南東から)
- 4 3号溝杭確認地点(南東から)
- 5 3号溝杭確認地点(北から)

P L . 9

- 1 出土した木机(北から)
- 2 出土した木机(北から)
- 3 机列検出状況(北から)
- 4 机列検出状況(南から)
- 5 水田面西半(南東から)
- 6 水田面中央(南東から)
- 7 水田面東半(東から)
- 8 水田面東半(北東から)

P L . 10

- 1 水田面西半耕作痕(南から)
- 2 水田面西半耕作痕(南から)
- 3 水田面西半耕作痕(東から)
- 4 水田面中央耕作痕(東から)
- 5 水田面中央耕作痕(北から)
- 6 水田面東半耕作痕(南から)
- 7 水田面東半耕作痕(南から)
- 8 水田面東半耕作痕(東から)

P L . 11

- 出土遺物

P L . 12

- 出土遺物

第1章 調査経過と調査の方法

第1節 調査に至る経緯

群馬県では、本県を襲った令和元年東日本台風をはじめ、近年、気候変動の影響等により、水害等の気象災害が頻発化・激甚化する中で、気象災害の新たな脅威にしっかりと対応できる「災害レジリエンスNo.1」の実現に向け、災害時にも機能する強靭な道路ネットワーク(レジリエンスネットワーク)の構築を目指している。

西毛広域幹線道路は、起点前橋市千代田町、終点富岡市富岡、延長27.8kmで、前橋市・高崎市・安中市及び富岡市を結ぶ広域的な交通を担う幹線道路である。防災拠点や物流拠点が集積する防災・物流拠点集積エリア間を結ぶ強靭な道路ネットワーク(前橋エリア～高崎・安中エリア～甘楽富岡エリア)に位置づけられ、大規模な災害時においても、広域的な救命救助や被災地への支援物資輸送、経済活動の継続性の確保を可能にすることで、県民の安全な暮らしや企業などの安定した経済活動への支援を行う。西毛広域幹線道路により県央地域と西毛地域のアクセスが向上し、沿線地域の結びつき強化に貢献し、また高速インターチェンジや新幹線駅への所要時間が短縮されることから、首都圏や長野・新潟方面へのアクセスが容易となる。更に道路ネットワークの強化により、物流や防災機能が大きく向上し、西毛地域の成長力底上げを支援することを意図している。

令和3年4月23日、群馬県地域創生部文化財保護課(以下「保護課」)は県土整備部建設企画課長から提出された「令和3年度以降の公開発掘実績計画一覧表」を受け、「公開発掘実績計画に関する埋蔵文化財の判定結果について」を建設企画課長に通知した。この中で、西毛広域幹線道路予定地(以下「事業地」)の中に高崎市遺跡番号H128号が含まれることから、当該事業地での試掘・確認調査が必要な旨の回答がなされた。

令和3年9月13日、高崎土木事務所から保護課あて、事業地での埋蔵文化財に関する試掘・確認調査の依頼が送付された。令和3年10月4～5日、保護課は試掘・確認調査を実施したところ、事業地からはAs-B下水田跡が

検出された。令和3年12月6日、保護課は高崎土木事務所に対して、試掘・確認調査結果を通知し、事業地からはAs-B下水田跡が検出されたため、工事の前には本調査が必要であること、および文化財保護法第94条第1項の規定による通知が必要であることを伝えた。

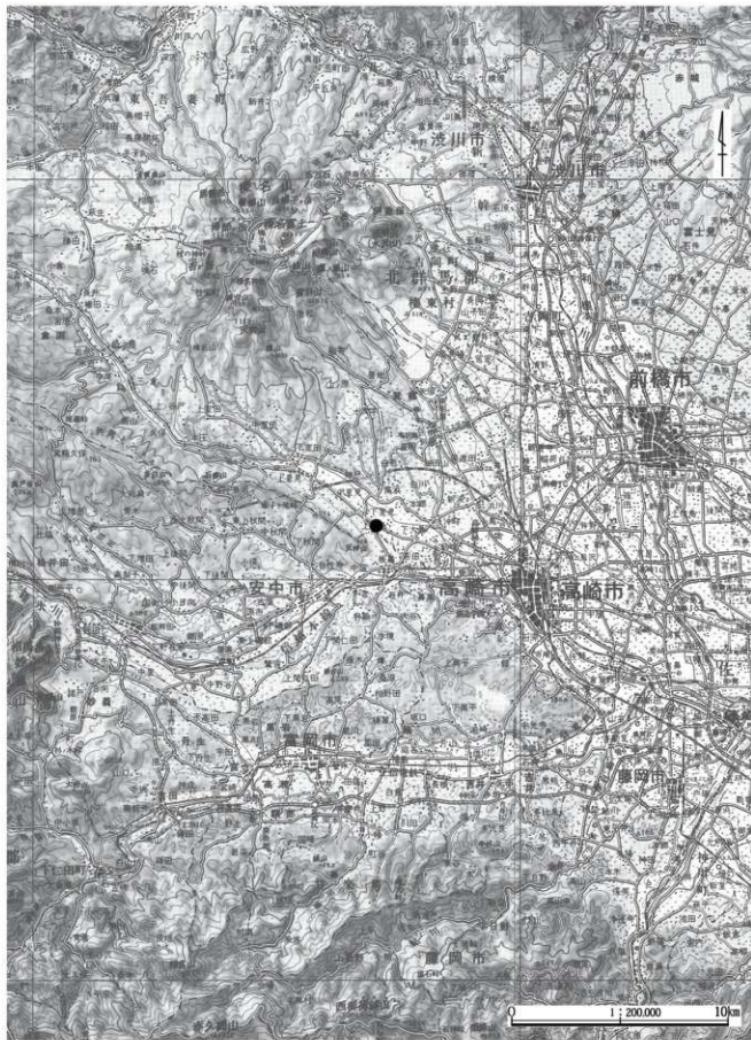
群馬県高崎土木事務所と保護課による調整が行われ、公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により本調査が行われることとなった。本調査は調査履行期間令和5年1月1日～令和5年3月31日として実施されることになった。

第2節 調査の経過と方法

発掘調査は公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が主体となり、令和5年2月1日～令和5年3月31日に実施された。事業地は烏川右岸を流れる里見川の右岸にあり、国道406号と里見丘陵の間に位置している。調査事務所を県道137号箕郷板鼻線と国道406号下里見交差点付近の事業地内に設置した。事務所から調査現場までは民地を借用し通路を設置した。

下里見番場遺跡の発掘調査にあたり、現況である農地が、階段状のテラスにより区切られることから、遺跡に北接する国道406号寄りの北側低位面を1区とし、以後南西方向に向かい1段上がるごとに2区、3区と呼称した。建設機械による表土掘削は、調査区全体を一括して実施し、排土は10t クローラーダンプによって調査区内の調査不要部に運搬し整地を行った。調査地は里見台地の崖下から烏川下位段丘面を階段状に削平整地した、現況水田であり、道路寄りの調査区北東部のように地山の河床礫まで削平されている部分も存在した。なお、調査区全域でAs-C混土層が確認されたが、As-C混土の下層は礫を含む基盤層となっており、旧石器時代の遺構・遺物は確認されなかった。

厚さ十数cmのAs-Bが調査区全面に堆積していることから、As-Bの除去は発掘作業員の手作業として実施した。遺構の検出や遺構調査に際しては調査担当者の指導のもと、遺跡掘削技術管理者が発掘作業員に指導して人力掘

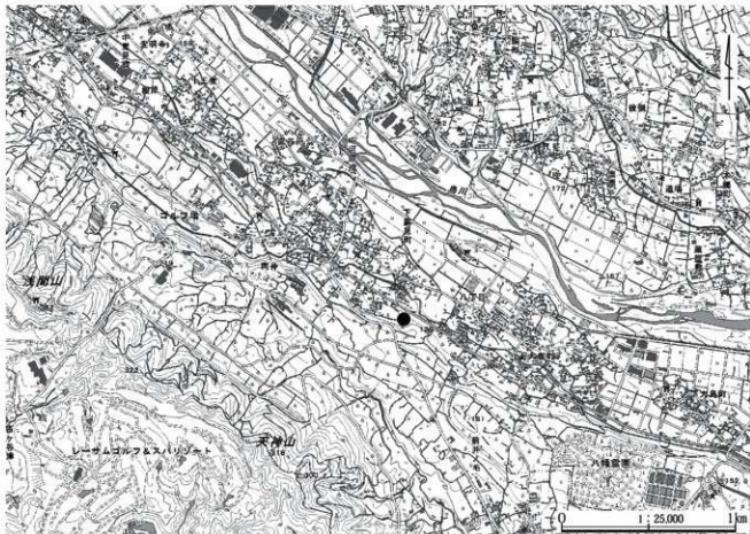


(国土地理院20万分の1地勢図「長野」「宇都宮」を編集、加工)
第1図 遺跡の所在

削で実施した。埋没土観察や、遺構・遺物の写真記録作業などは調査担当者が行った。遺構写真の撮影に際しては2020万画素の一眼レフ・デジタルカメラと6×7判の一眼レフ・フィルムカメラを使用した。遺構の断面図や平面図などの測量作業は測量会社に委託した。遺跡全面写真については、業者に委託してラジコンによる空中写真撮影を実施した。写真・図面及び出土遺物の整理補助は、遺跡掘削業者の整理補助員が行った。

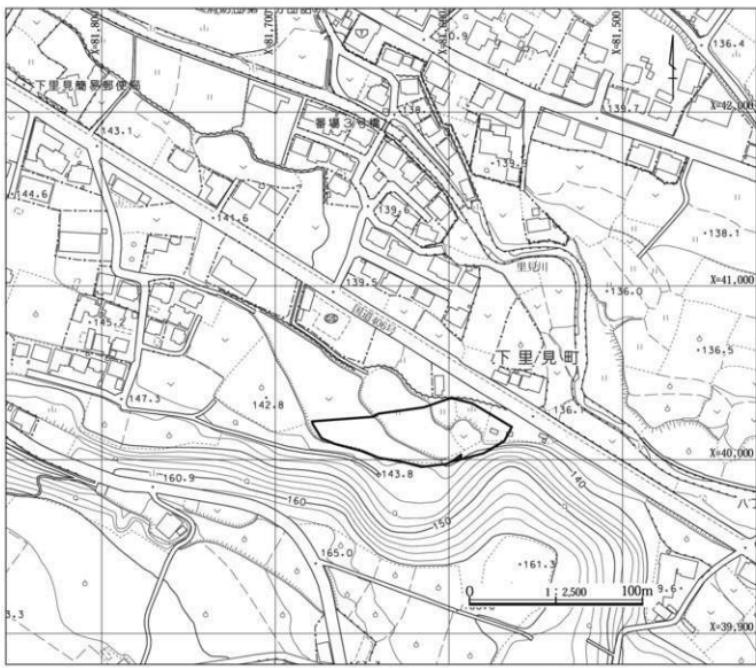
作業日誌抄録

- 令和5年
 2月1日水 調査事務所、トイレ設置
 3日金 調査区表上掘削作業開始
 7日火 建設機械による表土掘削継続
 人力によるAs-B掘削除去開始
 9日本 調査区第一面(As-B下)調査掘削作業着手
 雨、表土掘削とAs-B削除除去中断。土山整備作業
 15日木 表土掘削とAs-B削除除去継続。1号溝査定
 17日金 1～3号As-B下水面の検出作業継続
 2号溝写真撮影及び調査区南側掘削査定
 24日木 人力による1面As-B斜石掘削除去作業
 27日水 3区As-B下水面精査作業継続。1号溝測量
 28日木 早田氏来場、指導を聞く。
 3月1日水 2区As-B下水面検出作業継続。2号溝掘削調査継続
 3日木 As-B下面空中写真撮影
 8日水 As-B下面空中写真撮影
 9日本 As-B下面水面下調査開始。1～5号溝全線写真撮影
 13日木 雨天につき調査活動中止。発掘調査器具等整備
 15日木 2号溝拡張調査。1面As-B下耕作土・植物根調査
 17日木 2号溝全景写真撮影。1区北側トレーニング調査
 20日木 整理作業着手
 22日水 調査区北側掘削、吐換出土写真撮影・測量
 24日木 整理作業終了
 31日金 遺物発見候提出



(国土地理院2万5千分1「下室田」を加工。)

第2図 調査区の位置



(国土地理院「地理院地図Vector(試験公開)」gsi20230411133554783.pngを加工。)

第3図 調査区設定

第2章 周辺の環境

第1節 地理的環境

下里見番場遺跡(以下「本遺跡」)は群馬県高崎市下里見町に所在する。下里見町は群馬県の中ほどやや西寄りにあり、県央に位置する榛名山の南麓を東南流する烏川の南、烏川に並行して東流する里見川の南岸に所在する。

本遺跡の所在する高崎市は明治33年に市制を施行し高崎市となり、昭和2年の塚沢村・片岡村との合併をはじめとし、以後周辺町村との合併・編入を繰り返し、平成23年より中核市に移行している。なお「高崎」の地名は慶長3年の井伊直政入城に伴うものであり、それ以前は「和田」と呼ばれていた。

中核市への移行の契機となった「平成の合併」に伴って、市域西の北限は烏川の上流、笠置山[1402m]、浅間隠山[1756.8m]付近に至り、長野県北佐久郡軽井沢町、吾妻郡東吾妻町、吾妻郡長野原町と接している。市域は源を鼻曲山[1655m]に発する烏川沿いに広がっており、榛名山[揖部ヶ岳、1449m]の南面を経て利根川の西岸に至り、南は物見山[1375.5m]に源を発する鏑川を越え一郷山、金比羅山とも呼ばれる牛臥山[490.7m]に至る。東は渋川市、北群馬郡棟東村、前橋市、佐波郡玉村町と接し、西は安中市、富岡市、南は埼玉県児玉郡上里町、藤岡市、甘楽郡甘楽町と境を接している。

中山道や三国街道が通る交通の要衝として古くから知られた土地柄であり、現在でも一般国道5路線の他に、高速自動車国道関越自動車道[東京都三鷹市-新潟県新潟市/上越市]、高速自動車国道北関東自動車道[高崎市-茨城県水戸市]、高速自動車国道上信越自動車道[藤岡市-新潟県上越市]が市域を縦横に走り、日本海と太平洋を結んでいる。また鉄路においてもJR上越新幹線[埼玉県大宮駅-新潟県新潟駅]、JR北陸新幹線[高崎市高崎駅-石川県金沢駅]のほかJR在来線5路線、私鉄1路線が稼働しており、内陸交通の拠点となっている。

本遺跡の所在する下里見町は現市域の中央付近に位置し、「平成の合併」以前は群馬郡榛名町と呼ばれた地域に区分される。榛名町は昭和30年に群馬郡室田町、群馬郡

久留間村、碓氷郡里見村の三町村が合併して成立した地域である。この合併により旧榛名町・現高崎市榛名地域は榛名山山頂からその南面、また榛名山南麓を東流する烏川の両岸とその南に位置する秋間丘陵(里見丘陵)にかけての広い範囲を指し示すことになった。この榛名地域の主たる地形は火砕流台地、河岸段丘、扇状地、谷底平野および山頂から中腹にかけての山地斜面に区分されている。なお高崎市との合併後も榛名地域の各地区として、榛名町成立以前の行政区画が用いられている。

火砕流台地は、新榛名火山のカルデラ形成に先立つおよそ5万年前頃に山麓を流下した室田火砕流群により形成された十文字台地、室田台地、本郷台地、里見台地である。また十文字台地や室田台地を浸食し南流する小河川により、宮沢や三ッ子沢、高浜などの地に谷底平野が形成されており、十文字台地とその南端に位置する本郷台地との間に谷底平野が形成されている。なお深谷起震断層高崎活動セグメントの北端部分が確認されている、里見台地とその南に位置する上位段丘との境にも谷底平野が形成されている。なお『榛名町誌』によれば、室田台地の南東端付近は室田台地東北辺を流下する滑川の土石流が堆積した小型の扇状地とされる。

河岸段丘は烏川右岸に発達しているが、最下位の段丘は氾濫原との区別が難しいとされる。烏川の南に位置する秋間丘陵(里見丘陵)の北辺沿いに位置する上位段丘面の形成年代は把握されていない。この上位段丘の北、間に深谷起震断層高崎活動セグメントを挟んで中位段丘が存在し、その上に里見台地が堆積したとされる。この中位段丘の北側に下位段丘が位置する。本遺跡はこの里見台地北辺の崖下に位置する。なお下位段丘面からは上部ローム層の堆積が確認されており、2.4万年前から2.6万年前頃に形成されたと推測されている。



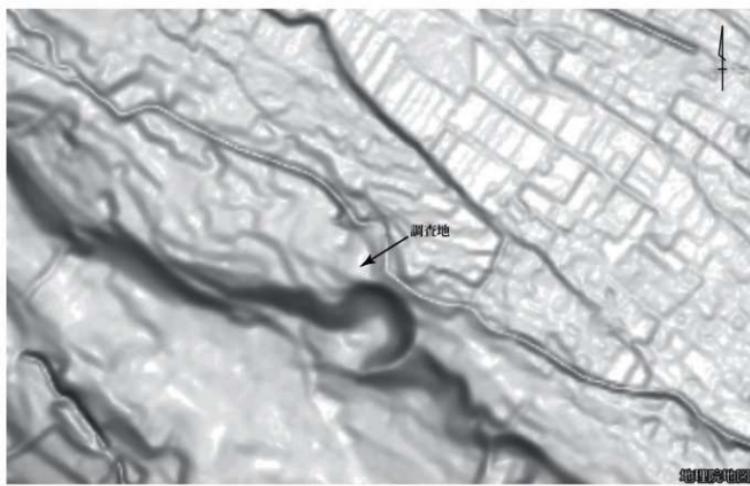
(産総研「日本シームレス地図V2 地質図更新日2022年3月11日」を加工。)

H_sad	新生代 第四紀 完新世 堆積岩、谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物	N 2_son	新生代 新第三紀 中新世 後期ランギアン期～トトニアン期 堆積岩、海成層 泥岩
H_svd	新生代 第四紀 完新世 堆積岩、自然堤防堆積物	Q 3_v_ad	新生代 第四紀 後期更新世 火成岩、火山岩 岩屑なだれ堆積物
Q32-33_std	新生代 第四紀 後期更新世中期～後期更新世後期 堆積岩、砂丘・堆積物	Q 1-H_v_af	新生代 第四紀 更新世 ジェラシアン期～完新世 火成岩、火山岩 火山麓扇状地堆積物
Q31_std	新生代 第四紀 後期更新世前期 堆積岩、段丘堆積物	Q 3_vis_al	新生代 第四紀 後期更新世 火成岩、安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火碎岩
Q22_std	新生代 第四紀 更新世 後期チバニアヌン期 堆積岩、段丘堆積物	Q 21_vis_af	新生代 第四紀 更新世 ジェラシアン期 火成岩、安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火碎岩
Q22_sn	新生代 第四紀 更新世 後期チバニアヌン期 堆積岩、非海成層	N 3_vis_a	新生代 新第三紀 中新世 メッシニアヌン期～鮮新世 火成岩、安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火碎岩
N 2_snc	新生代 第四紀 更新世 ジェラシアン期～前期チバニアヌン期 堆積岩、非海成層	H_vas_af	新生代 第四紀 完新世 火成岩、ダイサイト・流紋岩 溶岩・火碎岩
N 2_sbs	新生代 新第三紀 中新世 後期ランギアン期～トトニアン期 堆積岩、汽水成層ないし海成・非海成混合層 砂岩、砂岩泥岩互層 ないし砂岩・泥岩	Q 3_vas_af	新生代 第四紀 後期更新世 火成岩、ダイサイト・流紋岩 溶岩・火碎岩

第4図 道跡周辺の地質



(陰影起伏図)



(傾斜量図)

(国土地理院「地理院地図 Vector (試験公開)」gsi20230405141242491.png 及び gsi2023040615231656.png を加工。)
第5図 遺跡周辺の地形

第2節 歴史的環境

本遺跡の所在する高崎市榛名地域周辺の地理的環境・歴史的環境については末尾に付した参考資料に詳しいので、本節では本遺跡周辺の主な遺跡分布図(第6図)と一覧表(第1表)を掲載し、当地域の概要を記載する。なお本節に記載した遺跡名称は原則として「マッピングぐんま遺跡マップ(<https://www2.wagmap.jp/pref-gummaiseki/Portal>)」に掲示された遺跡名に準拠している。

1 旧石器時代

本遺跡周辺での旧石器時代遺跡の調査例は少なく、更に烏川左岸の台地上に限定されている。十文字台地にある三ツ子沢中遺跡(120)と白岩民部遺跡(186)のAT層直下の層位から後期旧石器時代の小型のナイフ形石器を主体とする遺構が確認されている。また同層になるが白川笠松遺跡とこれに隣接する和田山天神前遺跡も同時代の遺跡とされる。この他、本郷台地の本郷鶴来遺跡(146)においてAs-VP層の直下から剥片2点が出土している。

2 繩文時代

榛名地域の縄文時代遺跡は、榛名山麓の台地と烏川右岸の上位河岸段丘上に存在するとされ、榛名山麓の十文字台地では縄文時代早期の遺跡も確認されている。中尾根遺跡(127)では撚糸文系や沈線文系、押型文系の土器片、三ツ子沢中遺跡では撚糸文系の土器片、白岩浦久保遺跡(188)では条痕文系の土器片が出土している。なお烏川右岸八幡台地の剣崎支台にある剣崎長瀬西遺跡(74)では草創期や早期の土器が出土している。

縄文時代前期は気候が温暖化したことにより、群馬県内の遺跡数が爆発的に増える時期であり、大規模な定住化がなされる時期とされる。榛名地域では、大規模な集落は確認されていないが、山地尾根上や山裾の小規模な台地に集落が点在する傾向が指摘されている。前期の遺跡としては、十文字台地の高浜日輪遺跡(154)、子安遺跡(183)、三ツ子沢中遺跡で小規模な集落が確認されている。烏川右岸の下里見上ノ原・中原遺跡(53)、下里見宮谷戸遺跡(45)や本郷台地の本郷溝行原遺跡(144)でも集落が確認されている。また白岩浦久保遺跡では諸磯b

式の一括資料と块状耳飾りが出土している。

縄文時代中期になると、東日本各地で大型集落が拡大また広域化し、拠点集落となる大型の環状集落が内陸部中心に確認されるようになるが、広い台地での調査例に乏しい故か榛名地域では確認されていない。十文字台地の白川笹塚遺跡(189)、三ツ子沢中遺跡、烏川右岸の下里見宮谷戸遺跡、本遺跡に隣接する下里見天神前遺跡(49)、八幡台地岩田支台の若田原遺跡(86)、剣崎支台の剣崎長瀬西遺跡などで集落が確認されている。

後晩期は気候冷涼化の影響をうけ、集落規模の縮小と分散化が認められる時期とされる。中期から晩期にかけての遺跡は下位河岸段丘面に分布する傾向が指摘されている。十文字台地の三ツ子沢中遺跡や高浜古神遺跡(133)では後期初頭段階の敷石住居が確認されている。また烏川右岸の中里見根岸遺跡(4)、中里見中川遺跡(8)、中通遺跡(51)では晩期の土器が出土しており、中里見根岸遺跡の出土遺物には長野県の土器も含まれている。

3 弥生時代

群馬県の弥生文化は旧利根川を境に東西二分され、榛名地域を含む旧利根川の西側は長野県地域との関連が深いとされている。吾妻川流域は鳥居峠経由で北信地域と結ばれ、鏡川流域は内山峠経由で東信地域と結ばれており、この間に位置する榛名山東南麓は古式の弥生土器が希薄な地域とされる。

弥生時代の前半は、烏川を望む台地の縁辺に生活拠点を置き、台地の下の面を開発し、台地の裾から湧き出す湧水で水田を営んだと推測されている。烏川右岸の中里見中川遺跡、中里見根岸遺跡、烏川左岸の神戸岩下遺跡(116)などで、遺物包含層や水田に関連する遺構が検出されている。

後期になると榛名地域南東部において遺跡が急増し、烏川左岸の本郷台地先端及び一段下がった段丘にかけての一帯に遺跡が密に集中し展開する傾向が指摘されている。寺内遺跡(165)、道場II遺跡(157)、藏屋敷遺跡(159)、藏屋敷II遺跡(160)で竪穴建物が確認されており、隣接する道場II遺跡・藏屋敷遺跡・藏屋敷II遺跡は一連の大規模遺跡と推測されている。また鳴上I遺跡(195)では15棟、三ツ子沢中遺跡では1棟の竪穴建物が確認されている。これに対し烏川右岸では下里見宮谷戸遺跡で中期

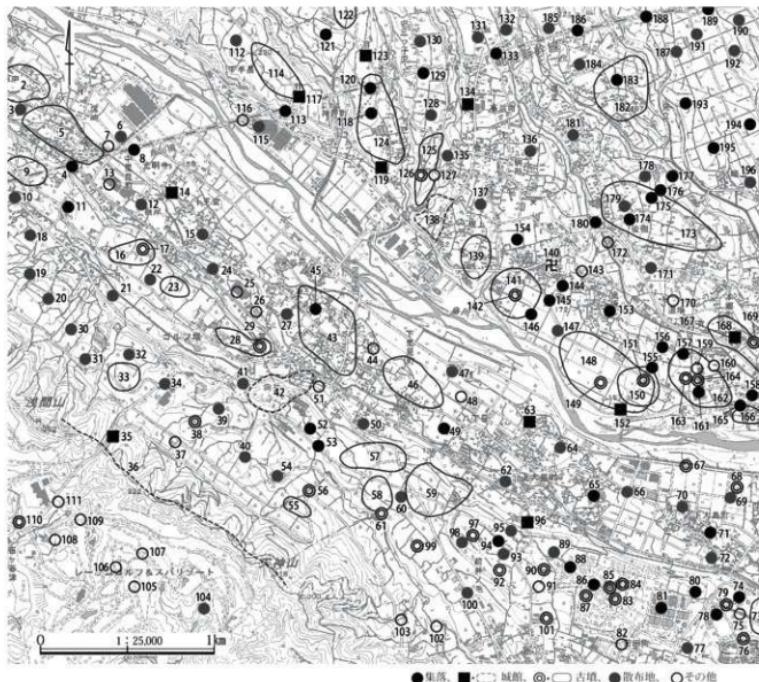
後半の竪穴建物と後期の礎床墓や竪穴建物が、下里見上ノ原・中原遺跡で後期の竪穴建物1棟が確認された程度にとどまる。しかし同じ右岸でも八幡台地まで下ると、78棟の竪穴建物が検出された剣崎長瀬西遺跡周辺は集落遺跡の集中地区であり、また若田坂上遺跡(80)からは後期の礎床墓が確認されており、鉄鋤や人形土器などが出土している。

4 古墳時代

古墳時代になると、高崎市南東部から前橋市南部・伊勢崎市・太田市の山麓扇状地の末端から利根川にかけての、当時低湿地であったとされている土地を対象に、畿内政権による新興開発がすすめられたことで、3世紀に

は沖積地内の小規模微高地に集落遺跡が営まれ、以後水系を単位に連帯し、地域社会を形成していったと推測されている。これに伴い、古墳時代になると榛名地域の遺跡数も急増し、集落と古墳を合わせると、奈良・平安時代の遺跡数をうわまわるといわれている。

4世紀には榛名地域周辺の在来生活圏にも新興開発に伴う新文化の影響が及ぶようになり、本郷台地に73mの前方後円墳である本郷大塚古墳(151)が築かれる。中里見原遺跡(11)の大型方形周溝墓もこうした新興開発の余波の先駆けと考えられる。なお高崎市南東部から安中市にかけての地に大型古墳が築かれた、4世紀後半から5世紀前半にかけての時期は、榛名地域では集落の存在が不明瞭とされる。下里見宮谷戸遺跡で4世紀前半から5世



紀代の竪穴建物が確認されている程度である。下里見宮谷戸遺跡では、金床の出土した5世紀前半の竪穴建物が確認されており、鉄器生産に関する遺構と考えられている。また中里見根岸遺跡や中里見中川遺跡ではAs-C下の水田が検出されており、下位河岸段丘上の小河川周辺の低地部で水田耕作が営まれていたと推測されている。

5世紀後半に至り集落が増加し、本郷台地の蔵屋敷遺跡、道場遺跡、供養塚遺跡(161)、寺内遺跡などで竪穴建物が検出されており、道場II遺跡からは外来系土器、蔵屋敷遺跡からは韓式系土器も出土している。なお、蔵屋敷遺跡と道場II遺跡は高浜天狗原遺跡(180)を含め一連の遺跡であり、本郷・蔵屋敷環溝居館を構成すると考えられている。5世紀中葉から6世紀にかけて、榛名地域の南東に隣接する八幡丘陵に三角板革縫短甲や滑石製模造品を出土した劍崎長瀬古墳(74)や鉄製矛や横矧板鍔留短甲を出土した若田大塚古墳(85)などの古墳が築かれる。本郷台地の的場・七曲E号墳(149)や久留馬地区の椎現陵古墳(169)なども概ねこの頃の築造とされる。なお、本遺跡に隣接する下里見天神前遺跡は里見古墳群の域外と考えられていたが、6世紀代の古墳が確認されており、その前後の時期に属する集落の存在も確認されている。

6世紀代は集落と竪穴建物の数が減少するが、6世紀から7世紀にかけて烏川右岸の里見地区や烏川左岸の久留馬地区にも相次いで群集墳が築造されている。また70基以上の古墳が確認された本郷台地の本郷I古墳群奥原・塚中地区群(141)を構成する古墳の多くもこの時期に築かれたとされる。なお同古墳群に隣接する本郷奥原遺跡(140)からは、7世紀後半と推測される寺院が確認されている。また金銅製丸瓶、鉄製鍛、焼印、鉄鍊などの金属製品が豊富に出土した十文字台地の高浜広神遺跡や里見台地の中里見原遺跡、本郷台地の高浜日輪遺跡、道場III遺跡(156)などからこの時期の集落が検出されている。

5 奈良・平安時代

律令制度に基づいて国郡里制や郷里制が施行され、整備される中で、榛名地域は前代の古墳群のまとまりが郡域の形成に繋がり、烏川右岸が碓氷郡(片岡郡)、左岸が群馬郡に属していたと考えられている。7世紀から8世

紀にかけて台地上に集落が形成され、群馬県内の他地域同様、9世紀、10世紀に集落や竪穴建物の数が増加し、11世紀には減少に転じている。

烏川左岸の本郷台地では隣接する蔵屋敷遺跡、道場II遺跡、道場III遺跡を合わせ、本郷蔵屋敷遺跡群と呼ばれる一連の集落遺跡から区画溝や銅印が検出され、近接する道場遺跡からは9世紀の集落が確認されている。十文字台地の高浜広神遺跡、白岩浦久保遺跡、三ヶ沢中遺跡などは古墳時代から平安時代にかけて継続する集落遺跡である。また銅印の出土した高浜天狗原遺跡では大型の掘立柱建物が検出されており、牧の管理施設である可能性が指摘されている。

烏川右岸では、中里見原遺跡、中里見中川遺跡、中里見根岸遺跡、下里見宮谷戸遺跡などで平安集落が確認されている。中里見原遺跡からは里見庵寺に想定される9世紀の基壇状建物が確認されており、円面鏡、綠釉椀、瓦、鉄製品などが出土している。

烏川によって形成された低地と台地を流れる河川が形成した谷底平野に水田が営まれたとされ、As-B下水田が下位河岸段丘を貫流する向井川や里見川のつくる低地部などから検出されている。烏川右岸の根岸II遺跡(25)、根岸III遺跡(26)、中里見中川遺跡、中里見根岸遺跡、中川B区遺跡(7)、下里見宮谷戸遺跡、下里見天神前遺跡などでAs-B下水田が検出されている。下里見宮谷戸遺跡ではAs-B下の烟も検出されており、同様な烟は中通遺跡でも確認されている。また烏川左岸の神戸岩下遺跡、本郷広神遺跡(143)、本郷西谷津遺跡(172)でもAs-B下水田が検出されている。

古墳時代から存在が知られている鉄生産関連遺跡は、平安時代になって数が増加したとされ、中里見中川遺跡で製鉄炉2基、中里見根岸遺跡で鍛冶炉1基が確認されているほか、中里見原遺跡の竪穴状遺構からは鐵滓や羽口が多量に出土している。里見丘陵南側の安中市秋間地区には県下最大規模を誇る秋間古窯跡群が存在する。7世紀初頭の操業と推定され、須恵器や瓦生産が行われており、8世紀から9世紀代には多くの支群が操業されるようになる。二反田遺跡(109)もこの時期の支群のひとつである。窯業や製鉄業が成立するには膨大な燃料の供給を必要とする。国外になると丘陵近くからは炭窯も検出されており、丘陵全体が燃料供給地として機能してい

たと推測される。

平安時代後半から鎌倉時代初期にかけて進展した莊園開発に伴い、烏川右岸は八幡荘、烏川左岸は長野郷であったと考えられている。上野国新田庄を本貫とする新田氏の祖とされる新田義重[1114/1135-1202]の庶長子義俊(里見太郎)[?-1170]が八幡荘に入部し、里見氏を称したと伝えられる。

6 中世

本遺跡周辺での中世遺跡の発掘調査事例は少なく、また土坑や溝が稀に検出される程度である。まとまりのある発掘調査例は烏川左岸の本郷鶴来遺跡で土坑墓や道路、畠が検出されている程度である。

発掘調査に基づく遺構や遺物には乏しいが、鎌倉攻めで名を馳せた新田義貞[1301-1338]生誕の地とされ、箕輪城の南西に位置し、里見郷と称される本遺跡周辺には里見氏に係る多くの中世城館も存在している。

烏川左岸に位置する御門城(167)は南北朝時代、長尾氏6代長尾景為「生没不詳」の子、景忠「生没不詳」が築いたとされる。烏川右岸の里見館(14)もこの頃に建てられたと考えられている。

烏川左岸の高浜の砦(138)は箕輪城の支城であり、長野業政[1491-1561]により弘治年間[1555-1558]に築かれ、永禄9(1566)年の武田信玄[1521-1573]による箕輪

城攻略はこの砦への奇襲から始まったとされる。七曲りの砦(152)も箕輪城の支城であり、永禄年間[1558-1570]には島方輝忠(生没不詳)の居城であったとされる。烏川右岸の里見城は里見義俊(新田義俊)[?-1170]の館で嘉吉元(1441)年に廃城されるまで里見氏の居館であったともされるが、永禄年間[1558-1570]は里見河内[?-1566]の居城であり、箕輪城主長野業正[1491-1561]配下の里見河内による築城と考えられている。永禄9(1566)年の武田氏による箕輪城攻略に伴い落城し、廃城されたと考えられている。

参考資料

- 有山徳世 2019 「II 地理的・歴史的環境」「下里見宮谷川道跡4」有限会社木野考古学研究所pp. 2~5
大西雅広 2022 「第1章第2節 周辺の環境」「上大膳伊勢道跡・薬師道跡・萬野道跡」公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp. 2~6
大西雅広 2023 「第2章 道跡周辺の環境」「下里見天神前道跡」公益財团法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp. 2~9
群馬県 2017 「マップビッグくま・道跡マップ」
志村哲 2019 「II 道跡の地理的・歴史的環境」「劍崎東村道跡」有限会社木野考古学研究所pp. 2~4
様名町誌編さん委員会 2007 「様名町誌・自然編」
様名町誌編さん委員会 2011 「様名町誌・通史編・上巻 原始古代・中世」
山口逸弘 2021 「第1章第3節 道跡の立地と環境」「高浜天狗原道跡」公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp. 2~7
山本ジエームズ 2017 「第2章 地理的・歴史的環境」「若田金福塚道跡」高崎市教育委員会pp. 1~2

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	田石部	範囲	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別	備考	文献
1	下里見番場道路	高崎市下里見町番場					○	○	○	○	水田	本道跡	
2	里見V古墳群新井地区群1	高崎市上里見町新井				○					古墳		
3	H106A道跡	高崎市上里見町田中・新井・町東・中沖、中里見町粗岸・中川									散布地		
4	中里見粗岸道路	群馬県様名町中里見		○				○			散布地、集落		12
5	里見V古墳群塙崎地区群	高崎市中里見町粗岸・中川					○				古墳		
6	H106B道跡	高崎市中里見町中川			○			○			散布地		
7	中川B区道跡	高崎市中里見町中川					○		○		水田		28
8	中里見中川道路	群馬県様名町中里見			○	○	○		○		包含層、水田、集落、墓		12

No	遺跡名	所在地	田石器	縄文	弥生	古墳	余良	平安	中世	近世	種別	参考	文献
9	里見IV古墳群下ノ原地区群	高崎市上里見町下ノ原			○						古墳		
10	H109遺跡(上里見井ノ下遺跡)	高崎市中里見町井ノ下	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		12
11	H105A遺跡(中里見原道路)	高崎市上里見町下ノ原・井戸 畠、中里見町井ノ下・原		○	○	○	○	○			散布地、再葬墓、 方形周溝墓、集 落		12
12	H117遺跡	高崎市中里見町根岸	○	○	○	○	○	○			散布地、その他		28
13	根岸遺跡	高崎市中里見町根岸					○				集落、水田		
14	里見館	高崎市中里見町堀之内						○			城館		4
15	H118遺跡	高崎市中里見町相岸	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
16	里見IV古墳群原北地区群	高崎市中里見町見原				○					古墳		
17	赤城山古墳	高崎市中里見町見原		○							古墳	里見村4墳、 6c円墳	28
18	H110遺跡	高崎市中里見町井ノ下・猪ノ 毛山	○	○	○	○	○	○			散布地		
19	H111遺跡	高崎市中里見町猪ノ毛山	○	○	○	○	○	○			散布地		
20	H112遺跡	高崎市中里見町猪ノ毛山	○	○	○	○	○	○			散布地		
21	H116遺跡	高崎市中里見町井ノ下	○	○	○	○	○	○			散布地		
22	H105B遺跡	高崎市中里見町原・根岸、下 里見町諏訪山			○	○	○				散布地		12
23	里見IV古墳群原南地区群	高崎市中里見町原・根岸			○						古墳		
24	H119遺跡	高崎市中里見町根岸	○	○	○	○	○	○			散布地		
25	相岸Ⅱ遺跡	高崎市中里見町根岸				○					水田		28
26	相岸Ⅲ遺跡	高崎市中里見町根岸				○					水田		28
27	H129B遺跡	高崎市下里見町宮谷・六反 田・中通・堂谷戸・天神前	○	○	○	○	○	○			散布地		
28	里見IV古墳群諏訪山地区群	高崎市下里見町中里見・諏訪 山・原			○						古墳		
29	下里見諏訪山古墳	高崎市下里見町字諏訪山			○						古墳	諏訪神社裏山古 墳6c前、帆立 貝形	28
30	H113遺跡	高崎市中里見町猪ノ毛山	○	○	○	○	○	○			散布地		
31	H115遺跡	高崎市中里見町猪ノ毛山	○	○	○	○	○	○			散布地		
32	H121遺跡	高崎市中里見町猪ノ毛山	○	○	○	○	○	○			散布地		
33	里見II古墳群猪ノ毛山地区群	高崎市中里見町猪ノ毛山			○						古墳		
34	H122遺跡	高崎市中里見町猪ノ毛山	○	○	○	○	○	○			散布地		
35	猪上手	高崎市上里見町、中里見町、 下里見町					○				城館		4
36	猪上手(使士上手)	安中市安中高森・二反田・獅 子岩他					○				城館		4
37	堂尾根遺跡	高崎市下里見町堂尾根		○	○						その他		28
38	里見II古墳群若林地区群	高崎市下里見町若林			○						古墳		
39	H123遺跡	高崎市下里見町若林・堂尾根	○	○	○	○	○	○			散布地		28
40	H125遺跡	高崎市下里見町若林・小蓋谷 戸・堂尾根・猪ノ毛	○	○	○	○	○	○			散布地		28
41	H124遺跡	高崎市下里見町古城・若林	○	○	○	○	○	○			散布地		
42	里見城	高崎市下里見町古城					○				城館		4

No	道路名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別	参考	文献
43	里見Ⅲ古墳群北村・宮谷戸地区群	高崎市下里見町中通・北村・堂谷戸			○						古墳		
44	H129A道路	高崎市下里見町北川原・天神通・北村・宮谷戸	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
45	下里見宮谷戸遺跡	高崎市下里見町字宮谷戸	○	○	○		○	○	○	○	集落	17、21、22、23	
46	里見Ⅲ古墳群天神通地区群	高崎市下里見町天神通	○	○	○		○	○	○	○	古墳		
47	H130道路	高崎市上大島町御伊勢			○	○	○				散布地		
48	上大島御伊勢遺跡	高崎市上大島町444、446番地						○	○		生産、墓	6	
49	下里見天神前遺跡	高崎市下里見町	○		○	○	○	○	○	○	集落、古墳、生産	6 c 円墳、形象埴輪、As-B下水田	
50	H128道路	高崎市下里見町番場・大道・八丁目山上・向井	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
51	中通道路	高崎市下里見町中通	○	○			○				散布地、畑	As-B 下畑	28
52	H127A道路	高崎市下里見町八丁目山上・古城・上ノ原・中原・下ノ原・猪ノ毛	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地、集落		
53	下里見上ノ原・中原道路	高崎市下里見町上ノ原・中原			○	○	○				集落	28	
54	H126道路	高崎市下里見町堂尾根・猪ノ毛	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
55	里見Ⅱ古墳群堂尾根地区群	高崎市下里見町堂尾根			○						古墳		
56	堂尾根2号墳	高崎市下里見町堂尾根			○						古墳	7 c 円墳	28
57	里見Ⅰ古墳群下原・中原地区群	高崎市下里見町下原・中原			○						古墳		
58	里見Ⅰ古墳群南原地区群	高崎市下里見町南原			○						古墳		
59	里見Ⅰ古墳群下原・八丁目山上地区群	高崎市下里見町八丁目・山上・下原			○						古墳		
60	H127B道路	高崎市下里見町下ノ原・南原・猪ノ毛	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
61	(安中市1135)	安中市板鼻大谷津1026			○						古墳		
62	H132道路	高崎市下里見町八丁目・小五郎谷戸	○		○	○	○	○	○	○	散布地		
63	上大島館	高崎市上大島町新井						○			城館		4
64	H131道路	高崎市上大島町新井・舞台・屋敷裏	○		○	○	○	○	○	○	散布地		
65	下大島6道路	高崎市下大島町猿前563			○						散布地、集落		
66	06H03	高崎市下大島町猿前563	○				○				散布地		
67	07A01	高崎市町原町四ツ田731	○								古墳		
68	07A02	高崎市町原町四ツ田767	○								古墳		
69	07H02	高崎市町原町四ツ田771他	○				○				散布地		
70	07H01	高崎市下大島町屋敷21他	○				○				散布地		
71	下大島7道路	高崎市下大島町屋敷21	○								散布地、集落		
72	14H04	高崎市下大島町猿前514他	○		○		○				散布地		
73	14A10	高崎市剣崎町長瀬西1331			○						古墳	八幡古墳群	

No.	道路名	所在地	旧G器	構文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別	備考	文献
74	劍崎長瀬西道路	高崎市劍崎町1331-3他		○		○					古墳、集落		18, 19, 20
74	劍崎長瀬西古墳	高崎市劍崎町字長瀬西				○					古墳		
75	14H10	高崎市劍崎町大塚南552他	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
76	14C05	高崎市八幡町大塚南561-1				○					古墳		
77	14H06	高崎市若田町坊屋敷1122他	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地	大道東道路	
78	14C04	高崎市八幡町大島原1414				○					集落、古墳、墓、 その他	大島原遺跡	
79	14A02	高崎市八幡町大島原1414他				○					古墳		
80	若田坂上道路	高崎市若田町328-1								○			27
80	若田金城塚道路	高崎市若田町291-1				○				○	古墳、道路状遺 構		28
81	八幡14遺跡	高崎市八幡町鰐1203	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地、集落		
82	若田13-2 道路	高崎市若田町清水久保70	○		○	○	○	○	○	○	散布地、集落、 その他(城館跡)		
83	13A02	高崎市若田町南下原548他			○						古墳	綿羅水八幡13、 綿羅水八幡21他	
84	13A03	高崎市若田町大塚442			○						古墳		
85	峯林古墳	高崎市若田町峯林512			○						古墳	若田古墳群、 7 c 円墳	
85	楡ノ木塚古墳	高崎市若田町大塚41			○						古墳	若田古墳群、碓 氷郡八幡村14号 古墳	
85	若田大塚古墳	高崎市若田町大塚422-1外				○					古墳	若田古墳群、碓 氷郡八幡村9号 古墳	
86	若田原道路	高崎市若田町南下原552- 1/554/554-1	○								集落、古墳	若田道路	
87	13D01	高崎市若田町南下原554-1	○		○						集落、古墳		
87	13D02	高崎市若田町南下原554	○		○						集落		
87	13D03	高崎市若田町南下原552-1	○		○						集落		
88	若田13-1 道路	高崎市若田町茶臼塚674	○		○	○	○	○	○	○	散布地、集落、 その他(城館跡)		
89	13H03	高崎市若田町北原789他	○		○		○				散布地		
90	13A01	高崎市若田町中原586				○					古墳		
91	13H02	高崎市若田町茶臼塚674他	○		○	○	○	○	○	○	散布地	埴輪	
92	板島 3 号墳	安中市板島糸子塚850				○					古墳		
93	13H01	高崎市若田町茶臼塚636他								○	散布地		
94	若田 6 道路	高崎市若田町上原712	○			○					散布地、集落		
95	06H02	高崎市若田町上原12	○			○					散布地		
96	小五郎塚	高崎市下里見字小五郎谷戸							○		城館	貨輪城支城	4
97	06A01	高崎市若田町茶臼塚674				○					古墳	綿羅水八幡23、 茶臼塚、削平	
98	06H01	高崎市若田町茶臼塚681				○					散布地		
99	板島 2 号墳	安中市板島上井ノ毛951				○					古墳	井ノ毛塚、前方 後円墳	

No.	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別	参考	文献
100	(安中市0366)	安中市板鼻前井ノ毛・跳子塙・中井ノ毛・上井ノ毛674他	○	○		○	○				散布地		
101	(安中市0365)	安中市板鼻屏風岩353他	○	○	○	○	○			○	散布地、古墳		3
102	(安中市0368)	安中市板鼻中井ノ毛1151他				○	○		○		散布地		
103	(安中市0367)	安中市板鼻前天神・大谷津1062他	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地	鉄器、跳溝	
104	(安中市0343)	安中市安中櫛5469他				○					散布地		
105	(安中市0347)	安中市安中垂平5861-3他			○	○					散布地、生産遺跡		
106	(安中市0348)	安中市安中垂平5879			○	○					散布地、生産遺跡		
107	(安中市0349)	安中市安中瀬ノ入5887-1				○	○				散布地、生産遺跡		
108	(安中市0266)	安中市下秋闌二反田4789他		○	○	○					散布地、生産遺跡		1
109	二反田遺跡	安中市下秋闌二反田4789他		○	○	○					散布地、生産遺跡		2
110	(安中市1184)	安中市下秋闌広町4681		○							古墳		
111	(安中市0267)	安中市下秋闌二反田4755-1他		○	○						散布地		
112	H67B道路	高崎市下室田町手長、神戸町宮山	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
113	神戸宮山遺跡	群馬郡榛名町大字神戸				○					集落		11
114	三ツ子沢神戸古墳群神戸・宮山地区群	高崎市神戸町宮山		○							古墳		
115	H67C道路	高崎市神戸町宮山	○		○						散布地		
116	神戸岩下道路	群馬郡榛名町大字神戸	○		○	○	○	○	○	○	水田、畠		11
117	神戸の堀	高崎市神戸町				○					城館		4
118	三ツ子沢中道路(榛名町)	高崎市三ツ子沢町中			○						古墳、集落		28
119	H78C道路	高崎市三ツ子沢町中・西・山ノ道・道下・板原	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地、集落		28
120	三ツ子沢中遺跡(事業団)	群馬郡榛名町大字三ツ子沢	○	○	○	○		○	○	○	集落、近世墓		16
121	H78B道路	高崎市宮沢町下金井原・京誠石・山王前、三ツ子沢町中・原田・上通・岡田、神戸町猪沢・北ノ原	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
122	三ツ子沢神戸古墳群宮沢・下金井原地区群	高崎市宮沢町下金井原		○							古墳		
123	三ツ子沢の堀	高崎市三ツ子沢町				○					城館		4
124	三ツ子沢神戸古墳群中西・山ノ神地区群	高崎市三ツ子沢町坂堂・山ノ神・中西		○							古墳		
125	三ツ子沢神戸古墳群中尾根地区群	高崎市高浜町中尾根		○							古墳		
126	伊勢殿山古墳	高崎市高浜町下三ツ子沢		○							古墳	7 c 円墳	28
127	中尾根遺跡	高崎市高浜町中尾根	○		○	○	○	○			その他		28
128	H81B遺跡	高崎市宮沢町飛地下ノ原、三ツ子沢町東向・森浜町中尾根・向原	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		28
129	高浜内原道路	群馬郡榛名町大字高浜	○	○	○	○					集落、田畠		11

No	道路名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別	参考	文献
130	H81A道路	高崎市三ツ子沢町東向、宮沢町中原・下ノ原・飛地中原・砂押・下ノ原・耐張	○	○	○	○			○		散布地		
131	H82A道路	高崎市高浜町内山、白岩町前 張下	○	○	○	○	○	○	○		散布地		
132	H83B道路	高崎市白石町棚開戸、高浜町 北原・広神	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		28
133	高浜庄神道跡	群馬郡棟名町大字高浜	○		○	○	○	○	○	○	集落、交通		10
134	遠北跡城	高崎市高浜町遠北							○		城館		4
135	久ノ上道路	高崎市高浜町久ノ上					○				散布地		28
136	H82B道路	高崎市高浜町西・一本桑・中 通・途北・駿瀬・八崎・東	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		11、28
137	H82C道路	高崎市高浜町一本桑・広開戸・ 久ノ上・上ノ代・宮開戸・弗 院前・西	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
138	高浜の野（坂土城）	高崎市高浜町坂上・久の上・ 広開戸・上ノ台					○				城館		4
139	本郷Ⅰ古墳群広開戸地区群	高崎市高浜町広開戸			○						古墳		
140	本郷奥原道路	高崎市本郷町奥原			○	○					社寺	素狩四井蓮華文 軒丸瓦、三重弧 文軒平瓦、瓦塔	
141	本郷Ⅰ古墳群奥原・塚中地区 群	高崎市本郷町鶴楽・塚中			○						古墳	奥原古墳群	5
142	奥原53号墳	高崎市本郷町塚中			○						古墳	6後～7初、円 墳。久留馬村22 号古墳	5
143	本郷広神道路	高崎市本郷町広神				○					水田	B下水田	13
144	本郷満行原道路	高崎市本郷町	○		○	○	○				集落、社寺		13
145	本郷上ノ台道路	高崎市本郷町				○	○				集落		13
146	本郷鶴楽道路	高崎市本郷町	○	○		○	○	○	○		集落、古墳		14
147	H82E道路	高崎市本郷町觀音堂・大塚・ 的場・鶴楽・塚中・七曲り・ 手石・細田	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		28
148	本郷Ⅰ古墳群 大塚・的場・七曲地区群	高崎市本郷町大塚・七曲り・ 的場・鶴楽			○						古墳		28
149	的場・七曲 E 号墳	高崎市本郷町七曲				○					古墳	本郷の場・七曲 古墳群、本郷鶴 楽塚古墳、久留 馬村18号墳、帆 立貝形	28
150	本郷の場古墳群	高崎市本郷町の場			○						古墳		15
151	本郷大塚古墳	高崎市本郷町字大塚387			○						古墳	久留馬村13号古 墳。中後、前 方後円墳	28
152	七曲りの野	高崎市本郷町字城							○		城館	日輪城、貞輪城 支城	4
153	H82D道路	高崎市高浜町一本桑・満行原・ 広神・奥原・上ノ台・朝熊野・ 手山・道場・西谷津・日輪・ 新井	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地、集落		
154	高浜白輪道路	高崎市高浜町日輪2321-1	○		○	○					集落		24
155	道場遺跡	高崎市鶴川町561他		○		○	○				古墳、集落、城 館		25
156	道場Ⅲ道路	高崎市本郷町道場			○	○					集落		28
157	道場Ⅳ道路	高崎市本郷町道場		○	○	○					集落		28

No	道路名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別	備考	文献
158	H82F遺跡	高崎市本郷町新井・福荷森・下段・寺内・供養塚・藏屋敷	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地、集落		28
159	藏屋敷遺跡	高崎市本郷町藏屋敷		○	○	○					集落		28
160	藏屋敷II遺跡	高崎市本郷町道場		○	○	○					集落、古墳		28
161	供養塚遺跡	高崎市本郷町供養塚				○					集落		28
162	本郷I古墳群地区内・藏屋敷地 区群	高崎市本郷町寺内・藏屋敷・ 供養塚・根室堂・道場				○					古墳		
163	しおめ塚古墳	高崎市本郷町1292-2				○					古墳	本郷の呑古墳群。久留馬村 14.人見塚、7c前。円墳	28
164	小白塚古墳	高崎市本郷町道場前				○					古墳	久留馬15号墳。 7c後半、終末期方墳	28
165	寺内古跡	高崎市本郷町寺内		○	○	○					集落		28
166	本郷I古墳群下段・福荷森地 区群	高崎市本郷町新井・福荷森・ 寺内				○					古墳		28
167	鶴門城（景忠寺）	高崎市本郷町三角・の場他						○			城館	市指定史跡	4
168	本郷II古墳群権現堂地区群	高崎市本郷町権現堂				○					古墳		
169	権現陵古墳	高崎市本郷町権現堂				○					古墳	~6c	28
170	H89遺跡	高崎市本郷町権現堂・伊勢森・ 三角・中郷・道場・カサ・本 豪寺裏・大力サ・五反田	○	○	○	○	○	○	○	○	散布地		
171	大力サ遺跡	高崎市本郷町1419-1他		○	○	○					散布地		
172	本郷西谷津遺跡	高崎市本郷町				○					水田	B下水田	13
173	本郷II古墳群鶴塚・塚ノ越地 区群	高崎市本郷町東塚・越・西塚 ノ越・資原・大力サ				○					古墳		13
174	本郷大カサ遺跡	高崎市本郷町				○	○				古墳、集落		13
175	本郷鶴塚遺跡	高崎市本郷町					○				集落		13
176	本郷芦原遺跡	高崎市本郷町				○	○	○			集落		13
177	本郷上上遺跡	高崎市本郷町					○				集落		13
178	萱原遺跡	高崎市本郷町1712-2他		○	○	○		○			散布地		
179	鶴塚遺跡	高崎市本郷町1664-1他		○	○			○			散布地		
180	高浜天狗原遺跡	高崎市高浜町				○	○	○			集落、包囲地		9
181	H88A遺跡	高崎市高浜町広神・道舟・茅 井・天狗原・箱瀬・本郷町鶴 塚・萱原・唱上		○	○	○	○	○	○	○	散布地		
182	本郷II古墳群見立地区群	高崎市高浜町子安				○					古墳		
183	子安遺跡	高崎市高浜町子安		○							集落		28
184	H85B遺跡	高崎市高浜町西子安・子安・ 見立		○	○	○	○	○	○	○	散布地		28
185	H85A遺跡	高崎市白岩町下堂・大門下・ 大門		○	○	○	○	○	○	○	散布地		28
186	白岩民部遺跡	群馬郡榛名町白岩字民部			○	○	○				集落、平安水田		8
187	H87B遺跡	高崎市白岩町菜種・大沼・上 尾鹿背・涌久保・下尾鹿背		○	○	○	○	○	○	○	散布地		28
188	白岩涌久保遺跡	群馬郡榛名町白岩字涌久保		○	○	○	○	○			集落		8
189	白川芭塚遺跡	群馬郡箕郷町白川芭塚			○	○					集落、古墳		8
190	梶松I遺跡	高崎市箕郷町白川梶松1447他	○	○			○				散布地		

No.	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	種別	参考	文献
191	尾根背山Ⅱ遺跡	高崎市箕郷町白川尾根背山 1371他		○			○		○		散布地		
192	尾根背山Ⅰ遺跡	高崎市箕郷町白川尾根背山 1279他		○	○	○	○	○	○	○	散布地		
193	H87C遺跡	高崎市白岩町下尾鹿背・下田		○	○	○	○	○	○	○	散布地		
194	茅原遺跡	高崎市箕郷町白川559他		○	○	○	○	○			古墳、平安集落	7	
195	帽上Ⅰ遺跡	高崎市箕郷町白川帽上509他		○	○	○	○	○	○	○	弥生~平安集落、中世世紀立	7	
196	湯前遺跡	高崎市箕郷町白川辻400他		○	○	○	○	○			散布地		

文献一覧

- 1 安中市教育委員会2011『安中市道路分布地図一市内道路詳細分布調査報告書一』安中市教育委員会
- 2 安中市埋蔵文化財発掘調査団1998『二反田遺跡』安中市埋蔵文化財発掘調査団
- 3 安中市教育委員会1998『屏風岩遺跡』安中市教育委員会
- 4 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城跡』群馬県教育委員会
- 5 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1983『奥原古墳群』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 6 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『上大島御伊勢遺跡、篆篠遺跡、衡衛遺跡』公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 7 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『茅峯遺跡、鳴上遺跡』公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 8 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『白川原塚遺跡、白岩浦久保遺跡、白井元部道跡』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 9 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『高浜天狗原遺跡』公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 10 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『高浜天神遺跡』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 11 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『高浜向原遺跡、神戸宮山道跡、神戸平下道跡』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 12 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『中里見道跡群』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 13 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023『本郷土ノ台遺跡、本郷通行原遺跡、本郷北神道跡、本郷西谷津道跡、本郷大力サ遺跡、本郷御宿道跡、本郷宮道跡、本郷晴上道跡』公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 14 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023『本郷鶴楽道跡』公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 15 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『本郷の場古墳群』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 16 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『三ッ子沢中道跡』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 17 有限会社毛野考古学研究所2019『下里見宮谷戸遺跡4』高崎市教育委員会
- 18 専修大学文学部考古学研究室2006『劍崎長瀬西5・27・35号墳』専修大学文学部考古学研究室
- 19 高崎市教育委員会2006『劍崎長瀬西道跡1』高崎市教育委員会
- 20 高崎市教育委員会2004『劍崎長瀬西道跡2』高崎市教育委員会
- 21 高崎市教育委員会2013『下里見宮谷戸遺跡第1次/下室田街道路/上中村荒神道跡第3次』高崎市教育委員会
- 22 高崎市教育委員会2014『下里見宮谷戸遺跡2・足門東屋敷遺跡・五葉神社古墳』高崎市教育委員会
- 23 高崎市教育委員会2014『下里見宮谷戸遺跡3・樺田閑谷道跡、金古町道跡、小木本宅地添道跡2・瓶玉道跡3・南大類町南道跡2』高崎市教育委員会
- 24 高崎市教育委員会2016『高浜口輪遺跡・後江原元屋敷遺跡・上大類北川道跡・富岡下破道跡2』高崎市教育委員会
- 25 高崎市教育委員会1989『道場遺跡』高崎市教育委員会
- 26 高崎市教育委員会2017『若田金瓶塚遺跡』高崎市教育委員会

27 高崎市教育委員会2018『若田坂上道路2』高崎市教育委員会
28 権名町誌編纂委員会2010『権名町誌資料編1原始・古代』権名町誌刊行委員会

第3章 確認された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要と基本土層

第1項 遺跡の概要

下里見番場遺跡(以下「本遺跡」)は群馬県高崎市下里見町に所在する。榛名山の南麓を南東に流れ下る烏川右岸の下位段丘面が里見丘陵と接する境の場所に立地している。本遺跡の標高は凡そ140m前後である。

本遺跡は包蔵地である高崎市H128遺跡の南東端を占める遺跡であり、同一包蔵地内には、上流側・西へ1kmほど離れた場所に、縄文時代晚期の土器が出土した中通遺跡がある。この遺跡からはAs-B下の烟も検出されている。本遺跡の南に位置する里見台地の崖上には、古墳時代後期後半から終末期の群集墳とされる里見1古墳群下原・中原地区群が存在する。また里見川を間に挟み本遺跡の北は高崎市H129A遺跡であり、包蔵地内には古墳時代後期後半から終末期の群集墳と推定されている里見Ⅲ古墳群天神地区群が存在している。なお国道406号を挟み北東に隣接した地には下里見天神前遺跡があり、縄文時代中期の堅穴建物と形象埴輪を作り6世紀代の円墳やAs-B下の水田が確認されているが、このほかに古墳時代・平安時代の堅穴建物も確認されている。

本遺跡は里見台地の下に広がる高崎市H128遺跡の東端に位置し、里見台地の北辺が一部こぶ状に飛び出した場所の直下に位置している。烏川・里見川の流れに沿い西から東へと下る傾斜と、烏川右岸の下位段丘面がもつ南から北に下る傾斜の両者が加味し、大まかには北東に下る緩やかな傾斜が存在する。里見台地崖下から里見川に向かう緩傾斜地を階段状に開発し、水路を取り回して造成された水田が今回の発掘調査の成果となった。

調査区西端から東にかけて棚田状に7段のテラスが検出されている。また調査区西半から時期の異なる溝3条が検出されている。

調査区の発掘調査前の現況が緩斜面に規制された4段の耕作地であったことから、この地形なりに西端の畑地を3区、その東の水田を2区、国道寄りの東端の一画を

1区として発掘調査に着手されたが、この区画設定と発掘された遺構の状況がそぐわないことから、調査区自体の広さも考慮し、あえて区毎の遺構区分を行わぬこととされた。これに伴い区記載の遺構図の作成も行われていない。概ねではあるが、調査区東端の7段目のテラスが1区、調査区西端の1段目と2段目のテラスが3区、残る区間が2区に相当する。

第2項 基本土層

調査所見によれば、第8図北壁Aと北壁Bが本遺跡の基本土層とされる。大まかに述べるなら、上位から、表土層、As-A混土層、As-B層、As-C混土層、灰色土層、黃褐色粘性土層、河床礫からなる地山層へと続く。調査区全面がほぼ水田面に相当するので、As-C混土層から表土層は水田遺構の埋土とも考えられる。

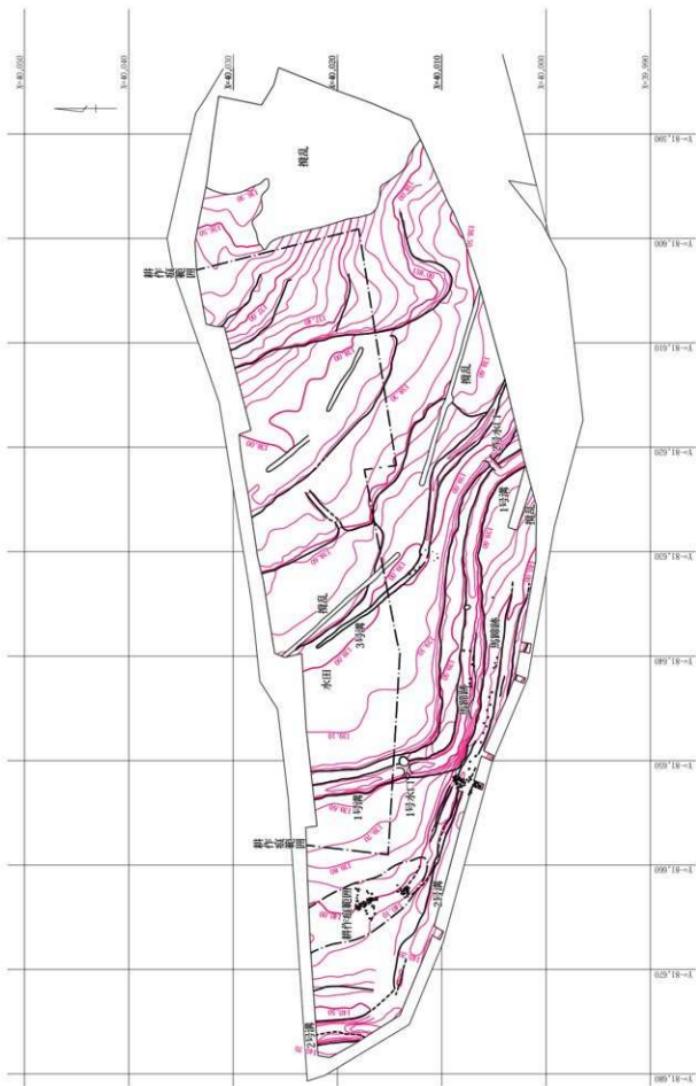
調査区内からはAs-Aの堆積は確認されていないが、調査区西側の住宅地側から調査区への進入路を整備するに際して、表土下からAs-Aの堆積が確認されたとのことである。現況が農地であった場所については耕作に伴い消滅した可能性が高いが、所によってはAs-A混土層に隣接してAs-A層が残されていると考えられる。

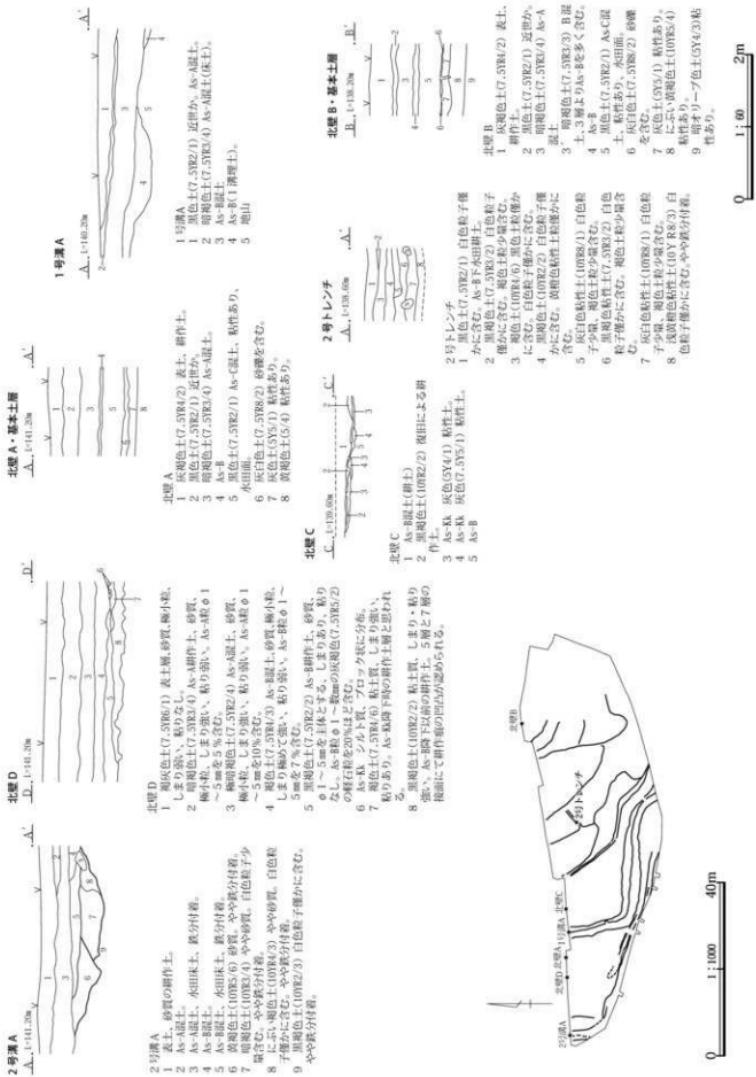
調査所見によれば表土掘削に際し指標とされたAs-Bは広く調査区全域から検出されたとされるが、里見台地の崖寄りに位置する2号溝からは検出されていない。同様にAs-Kkも山影となる台地近くからの検出は少なく、ほぼ調査区北半からの検出となる傾向がうかがえるが、検出される範囲はAs-Bより狭いように感じられる。

上流の中通遺跡や隣接する下里見天神前遺跡からも、As-B層の下位からAs-C混土層が確認されており、下里見天神前遺跡ではAs-B層の直下からAs-C混土層が検出されている。

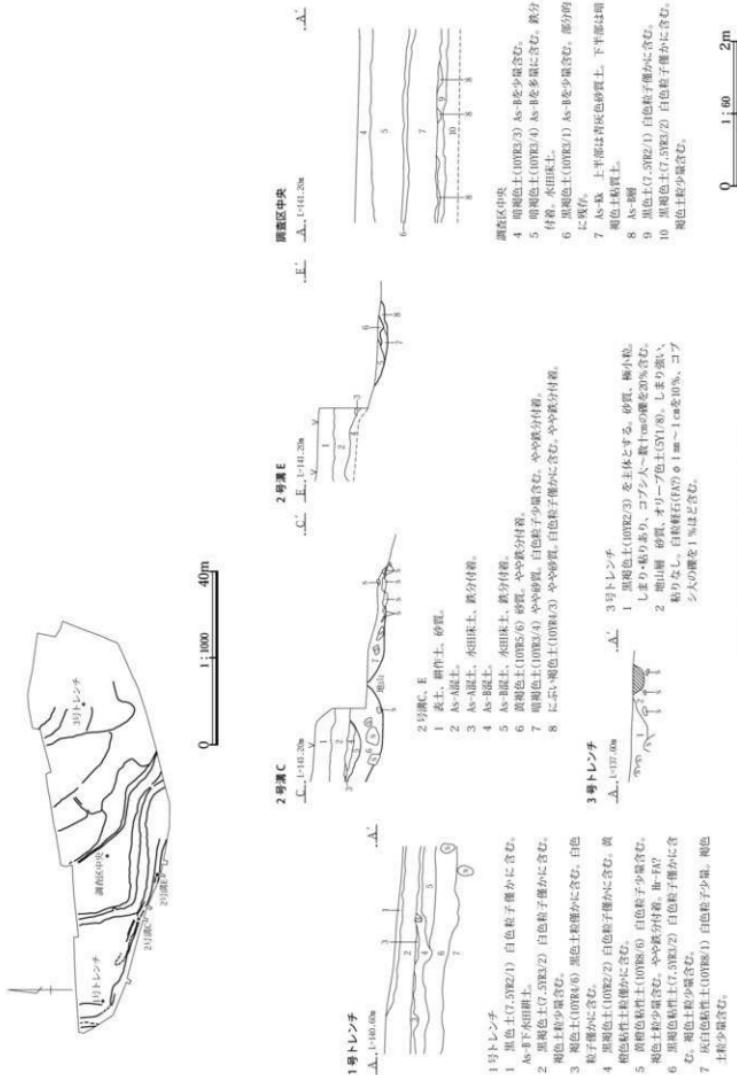
0 1:400 10m

第7圖 下里兒橋場測驗全體圖





第8図 下里番地跡跡各地点の土層 1



第19図 下里見畠地帯各地の土層2

第2節 確認された遺構

第1項 遺構の概要

今回の調査対象範囲のうち、発掘調査の対象となったのはAs-B下水田が確認された下里見天神前遺跡に近い国道406号寄りの地点であり、As-Bを指標に表土掘削をすすめた結果、1面の遺構確認面が検出されている。調査区からは水田と、これに伴う溝が検出された。調査区は里見台地の崖下に位置し、上流側の西から下流側の東にかけて数段のテラスが階段状に連なる地形となっており、棚田に類似した水田地帯が形成されていたと推測される。

調査区内からは7段のテラスが確認されており、概ねではあるが各テラスがそれぞれ水田1区画に相当すると推測される。溝は5条検出されており、水田に水を供給する水路と考えられる。なお調査所見によれば、5条確認された溝のうち、4号溝と5号溝は埋没土の状況や形状、立地する位置から現代の水路(側溝)を撤去した際の痕跡と判断されており、本書では攪乱として扱い、遺構としては記載していない。

第2項 確認された遺構

1 溝

調査区の西側から3条の溝が検出されており、それぞれ時期を異にする遺構と考えられている。1号溝からは溝と並走する畦が確認されており、2段目のテラスの東辺沿いに南流している。調査区西端に位置する2号溝は概ねL字状を呈し、最上位のテラスから調査区の南辺沿いに流下している。また護岸様の配石と馬蹄痕が検出されている。3号溝はその底面のみの検出と考えられるが、3段目のテラスを南流している。3号溝の屈曲部から複数の木杭が検出されており、発掘調査時より杭列と呼称されている。

(1) 1号溝(第10,19図, PL. 3, 4, 11)

調査区の西側、上位から2段目・西から2枚目のテラスの東端に位置し、調査区北辺より東南流し調査区南辺に至る。土手状の畦を伴う。

As-Bに埋もれた遺構であり、調査所見によれば平安時代以前に歸属すると考えられている。

a 溝

検出位置 X=40,002~40,023, Y=81,620~81,654、調査区中央西寄りに位置する。

形状等 底面は平坦で側壁は大きく傾斜し、ところにより弧状を呈する。N-15-W[13.34m]、N-83-W[25.27m]、N-40-W[4.52m]と鉤の手状に流れを変え、調査区北辺から南辺に至る。

付帯遺構 水口2か所が確認されている。

上流側に位置する水口(1号水口)は西に位置する水田からの流入用と東に位置する水田への排出用を兼ねると考えられる。1号水口は水路を堰き止めることを意図してか、底が2~6cm盛り上げられている。埋没時、西の水田面からの口は開いていたが、東の水田面への口は閉じられていた。

下流側の水口(2号水口)は東接する畦を切り開いており、東の水田への排出用と位置づけられる。

規模 (37.64) × 1.24~2.42 × 0.18~0.34m。北端の底面標高139.31m、南端の底面標高139.22m、標高差0.09mを測る。

走行方位(度) N-58-W

埋没土 上流部はAs-Bに埋まり、溝直上はAs-B混土に覆われる。中流部は白色粒と褐色土粒を含む黒褐色土に埋まり、溝直上はAs-Kkに覆われる。下流部の埋没土は不明であり、溝は白色粒子を含む黒褐色土を掘り込んでいる。

重複 なし

遺物 埋没土から8世紀前半の須恵器壺1片(1)が出土している。

b 畦

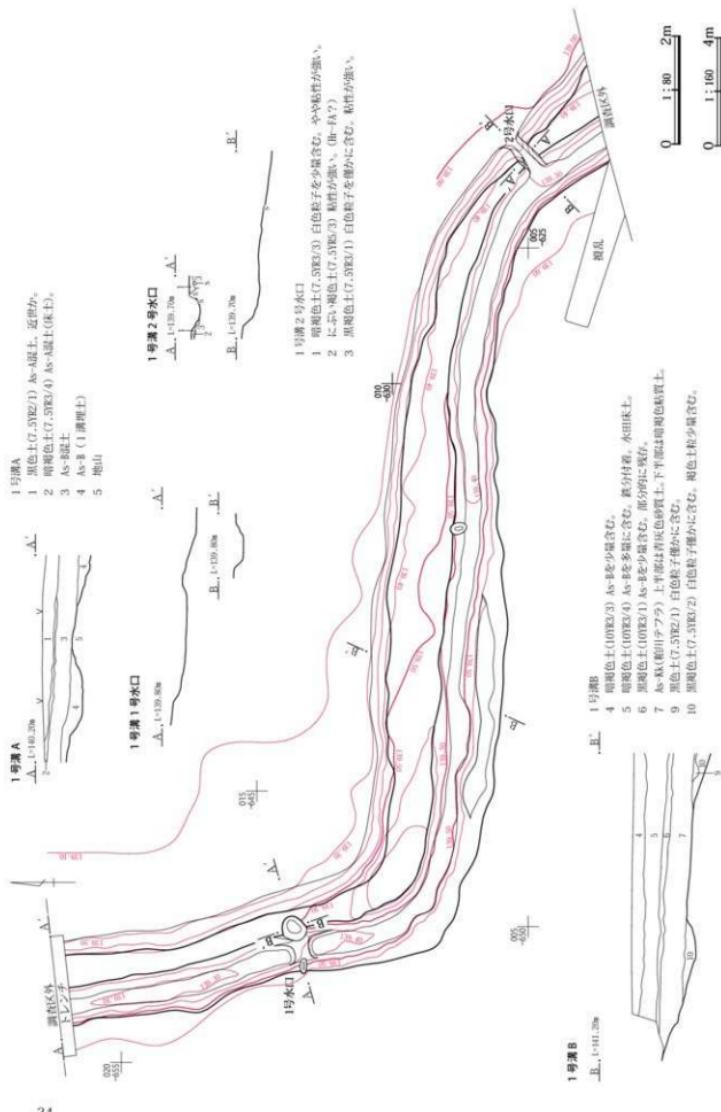
検出位置 X=40,002~40,023, Y=81,618~81,653、溝の東側、テラスの縁に位置する。

形状等 溝に隣接し一体となっている。

規模 (37.77) × 0.33~2.22 × (残存高) 0.02~0.15m

走行方位(度) N-59-W

埋没土 上流部はAs-B層直上のAs-B混土層により削平されている。中流部の畦直上にはAs-Kk層が位置するが、削平により中流部の溝や水田面を覆う黒褐色土層が失われた可能性がある。



重複 なし
遺物 なし

(2) 2号溝(第11~14,19図、PL. 5 ~ 7,11)

調査区の西南辺沿いに位置し、西端の最上位のテラスから調査区の南辺沿いに2段目のテラスに流れ下る。少なくとも新旧二つの溝の痕跡が交差し、鉛線としているがいずれも調査区北辺より南東流し調査区南辺に至る。埋没土6層により埋没した遺構を新溝(2-2溝)、埋没土7層により埋没した遺構を旧溝(2-1溝)とした。溝の形状、規模等については新旧それぞれごとに記述を行う。

検出位置 X=40.001~40.023、Y=-81.633~-81.678

付帯遺構 護岸様の配石、馬蹄痕については後述する。

遺物 新旧いずれの層属かは不明であるが、2号溝東半の埋没土からから、6世紀代の円筒埴輪(3)や10世紀代の灰釉陶器長頸瓶(2)が出土している。このほか土師器や須恵器の破片が出土している。

a 2-1溝

形状等 底面は弧状を呈する。N-15-W [7.33m]、N-72-W [26.96m]、N-76-W [14.72m]と流れを変え調査区北辺から南東流する。東端は確認されていない。

付帯遺構 護岸様の配石については後述する。

規模 (45.04)×0.82~2.07×0.12~0.30m。底面北端の標高140.20m、底面南端の標高139.96m、標高差0.24mを測る。

走行方位(度) N-66-W

埋没土 白色粒子を含み、やや鉄分の付着した砂質の暗褐色土に覆われる。

重複 並走する2-2溝に切られる。

所見 本遺構の年代は、埋没状況から平安時代末から中世に比定される。2-1溝より新しい。

b 配石

検出位置 X=40.006~40.021、Y=-81.651~-81.677。2号溝西北端から、確認された流域の3/4程度のところまで、溝側辺から護岸様の配石が確認されている(PL. 5, 6)。

形状等 溝なりに位置し、1段目のテラスから2段目にかけ、N-1-E [3.97m]、N-71-W [23.54m]の方位と

長さが確認されている。

所見 地域は異なり近世の事例ではあるが、崖下に位置する村道の脇に、崩落した礫を寄せて路肩の縁石となす事例にも類似した配石具合である。旧溝の護岸を意図したと推測されるが、2-1溝は排水路とも道ともつかない遺構であった可能性もある。

c 2-2溝

形状等 西端の底面形状はV字状を呈するが、概ね弧状の底面となっている。N-6-W [4.51m]、N-68-W [34.48m]、N-80-W [10.82m]と流れを変え、調査区北辺から南東流する。東端は確認されていない。

付帯遺構 馬蹄痕については後述する。

規模 (48.02)×0.75~1.35×0.08~0.42m。底面北端の標高140.28m、底面南端の標高139.96m、標高差0.32mを測る。

走行方位(度) N-65-W

埋没土 やや鉄分の付着した砂質の黄褐色土にや被われる。

重複 並走する2-1溝を切る。

所見 本遺構の年代は、調査所見及び埋没状況から平安時代末から中世に比定される。2-1溝より新しい。

d 馬蹄痕

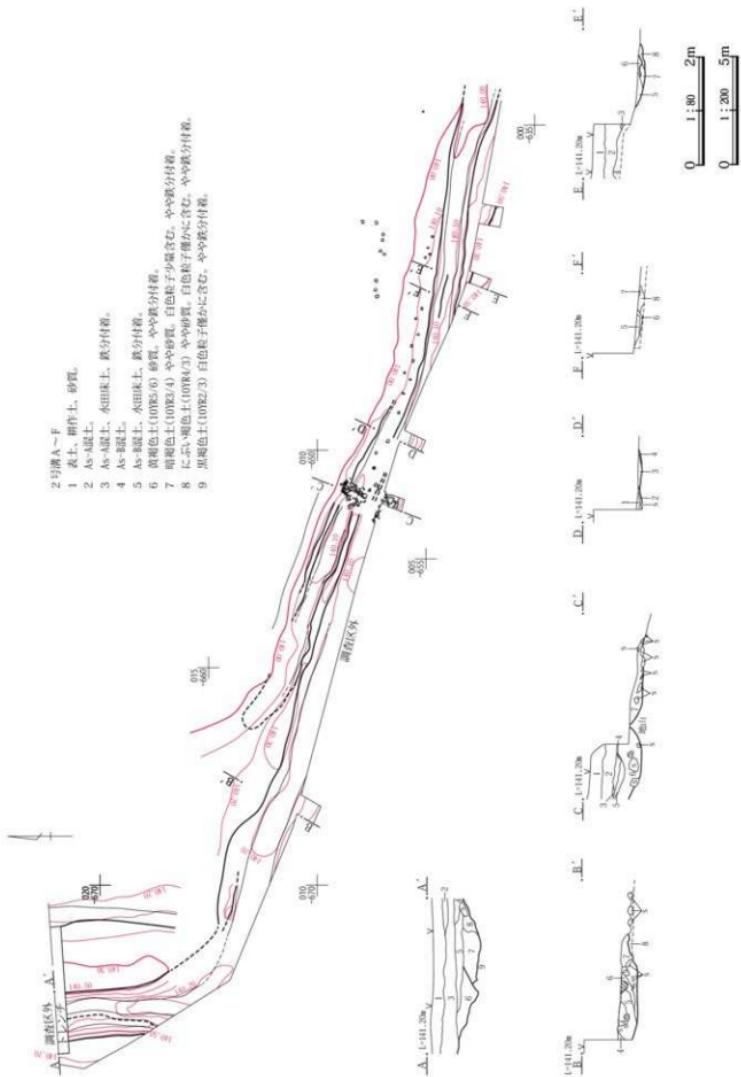
検出位置 X=40.004~40.008、Y=-81.634~-81.651。
2号溝東端付近から2群の馬蹄痕が確認されている。

埋没土 北側の一群は1号溝の埋没土である白色粒と褐色土粒を含む黒褐色土の上に残されており、南側の一群は2-1溝の埋没土である白色粒子を含み、やや鉄分の付着した砂質の暗褐色土の上に残されている。

所見 馬蹄痕は1号溝が埋まり、2-1溝が埋まりつつある或いは埋まった時点以降に残されたと推測される。1号溝は遅くともAs-Baによって水路としての機能を失い、馬蹄痕の確認された層位の上位にはAs-Kkが堆積している。馬蹄痕は遅くとも1128年、早ければ1108年以前に残されたものと推測される。

(3) 3号溝(第15,19,20図、PL. 8 , 9 , 11)

検出位置 X=40.003~40.023、Y=-81.613~-81.640。調査区中央部、上位から3段目のテラスの東端付近に位置する。



第11図 2号溝 1



圖2-1群

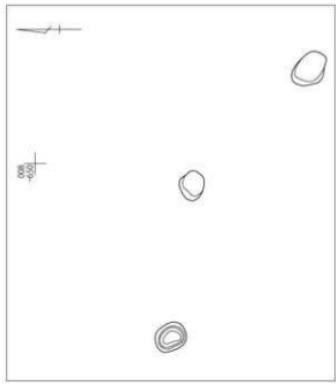


圖2-2群

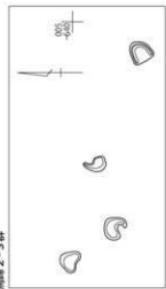
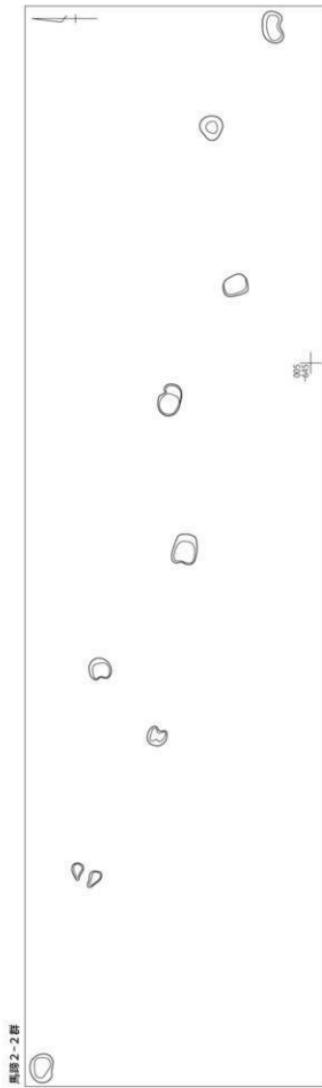
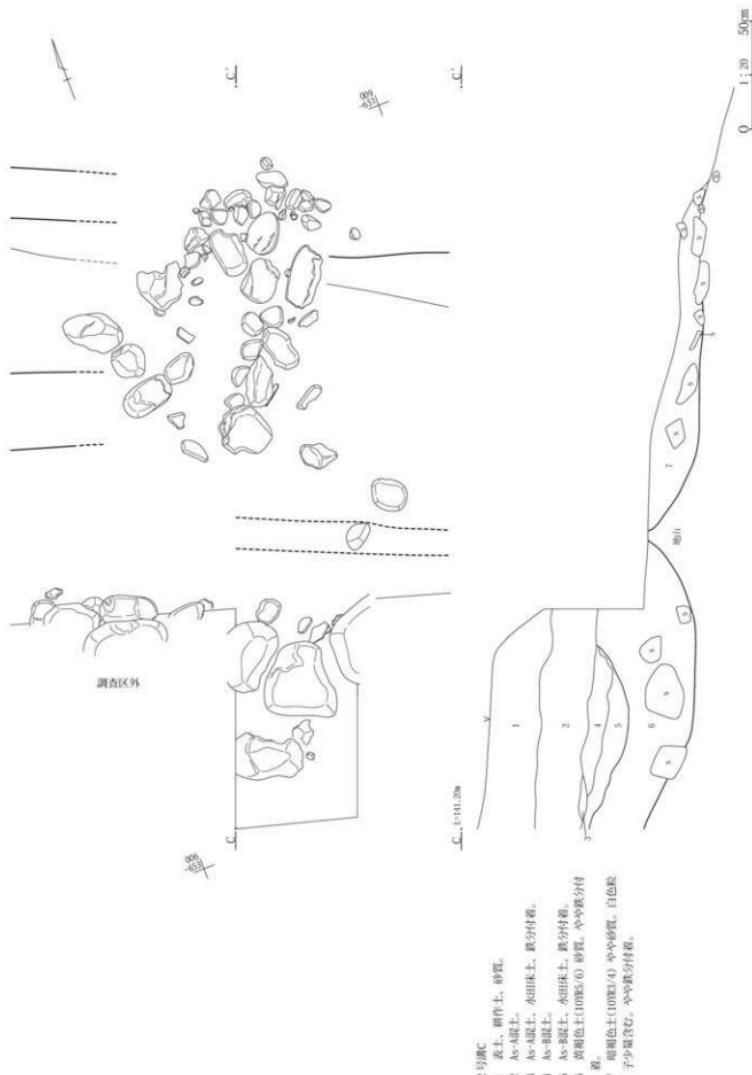


圖2-3群



第13圖 2-3圖 3(建築員2)

第14图 2号沟4(红层)



形状等 底部は弧状を呈する。N-40-W [13.42m]、N-88-W [7.84m]、N-54-W [11.26m]と東南流し調査区南辺に至る溝の、底部に近い部分が検出された。埋没土の堆積状況(第17図水田面中央)から、幅0.94m深さ0.41m以上の規模を有していたと推測される。

付帯遺構 杭列については後述する。

規模 $(31.44) \times 0.28 \sim 1.52 \times 0.02 \sim 0.17\text{m}$ 。底面北端の標高138.94m、底面南端の標高138.68m、標高差0.26mを測る。

走行方位(度) N-55-W

埋没土 黒く汚れたAs-Aを多量に含むやや砂質の明黄色土に覆われる。

重複 なし

遺物 埋没土から、在地系土器内耳鉢(5)、瀬戸・美濃陶器尾呂碗(7)、肥前磁器染付皿(6)、鉄製品犬釘?(8)のほか江戸時代の瀬戸・美濃陶器すり鉢や遺構外遺物とはなるが5世紀後半の土師器杯(4)が出土している。

所見 本遺構の年代は、埋没土から近世に比定される。

a 杭列

検出位置 X=40.010～40.014、Y=-81.629～-81.633。3号溝上流側の屈曲部付近から検出された。

形状等 用途不明ではあるが、11本の木杭と杭穴と思われるビット2基(N-80-W、0.13×0.09×0.14m、長円形)とN-60-W、0.11×0.07×0.19m、長円形)が確認されている。残存程度により杭は三分される。太目のものは(0.44)×0.09m程度、細目の物は(0.37)×0.05m程度、短めの物は(0.11)×0.04mを測る。

所見 杭の出土位置は溝内から8本、溝外に5本となっているが、検出された溝跡は溝の最低部であり、溝外に位置する杭も本来の溝内に収まる可能性は高い。

2 水田面(第16～18,20図、PL. 9～11)

検出位置 X=40.003～40.034、Y=-81.590～-81.673、調査区全面がほぼ水田面に相当する。西側2段目のテラスから東端7段目のテラスまでが水田面となるが、7段目は掘り過ぎており、As-B下水田面を通り越し、河床疊が露出する箇所も存在する。図化されたAs-B下水田面は2段目から6段目までの5区画となる。

形状等 水田の形は地形を優先した、等高線なりの不整形であり、方形に整える意図を感じさせる部位はテラス

5段目の一画にとどまる。なお各テラスの東端に存在したはずである畦は、1号溝に伴う畦を除き、過去の耕作によるものか、わずかな痕跡をうかがわせるのみであり記録にとどめられていない。またAs-Kk降下後、農地の一部に復旧作業を施した痕跡(第8図北壁C)も確認されている。

付帯遺構 耕作痕については後述する。

規模 $(77.76) \times (26.63)\text{m}$

長軸方位(度) N-79-E

埋没土 白色粒子を僅かに含む黒色土

重複 2号溝と併存する。

遺物 埋没土から8世紀前半の須恵器有台杯(9)や江戸時代の瀬戸・美濃陶器胎釉碗、肥前磁器染付皿?、近代の瀬戸・美濃陶器型紙刷碗などが出土している。このほか石器や土器など様々な遺物が出土しているが、出土場所を特定できないことから遺構外遺物として扱った。

所見 本遺構の年代は、調査所見及び埋没状況から平安時代末以前に比定される。

なお調査区北壁の観察によれば、耕作土が4層確認されている。近現代の耕作土、As-A混土の水田床土、As-B混土の水田床土、As-B下ないしAs-Kk下耕作土の4層であり、ここに記載した最下層の耕作面の上に更に3面の耕作面が存在している。

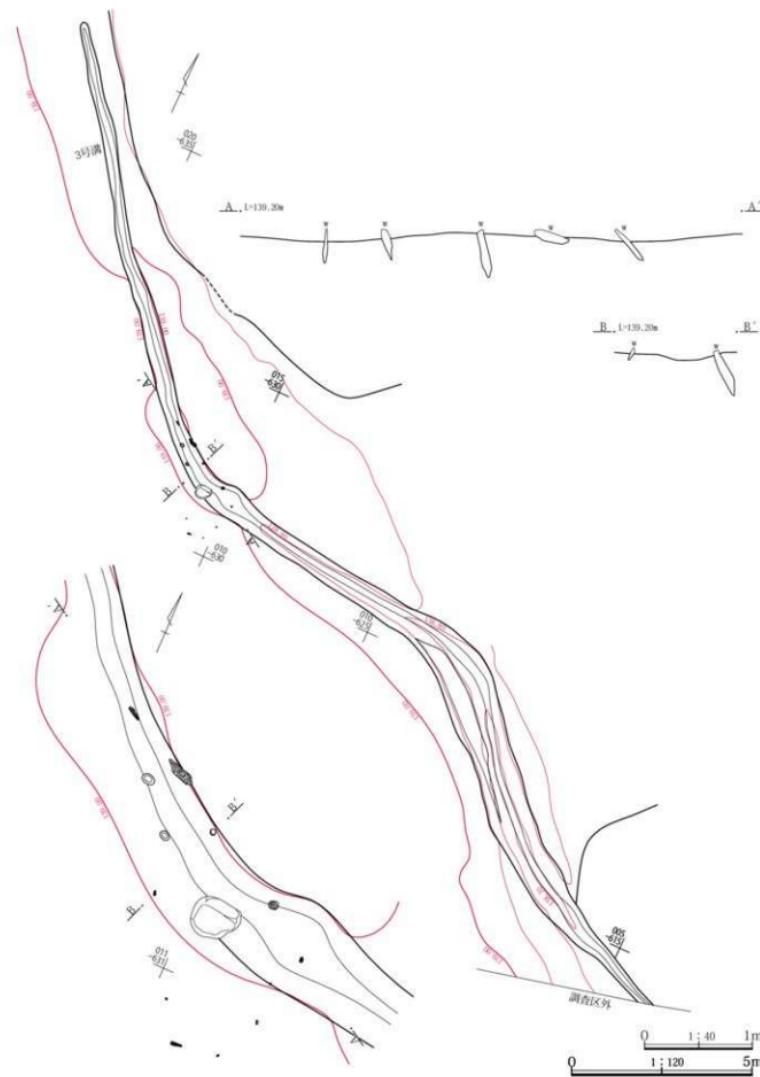
a 耕作痕

調査区北半の水田面から耕作痕が確認されている。その一部が図化され記録されているので掲載した。

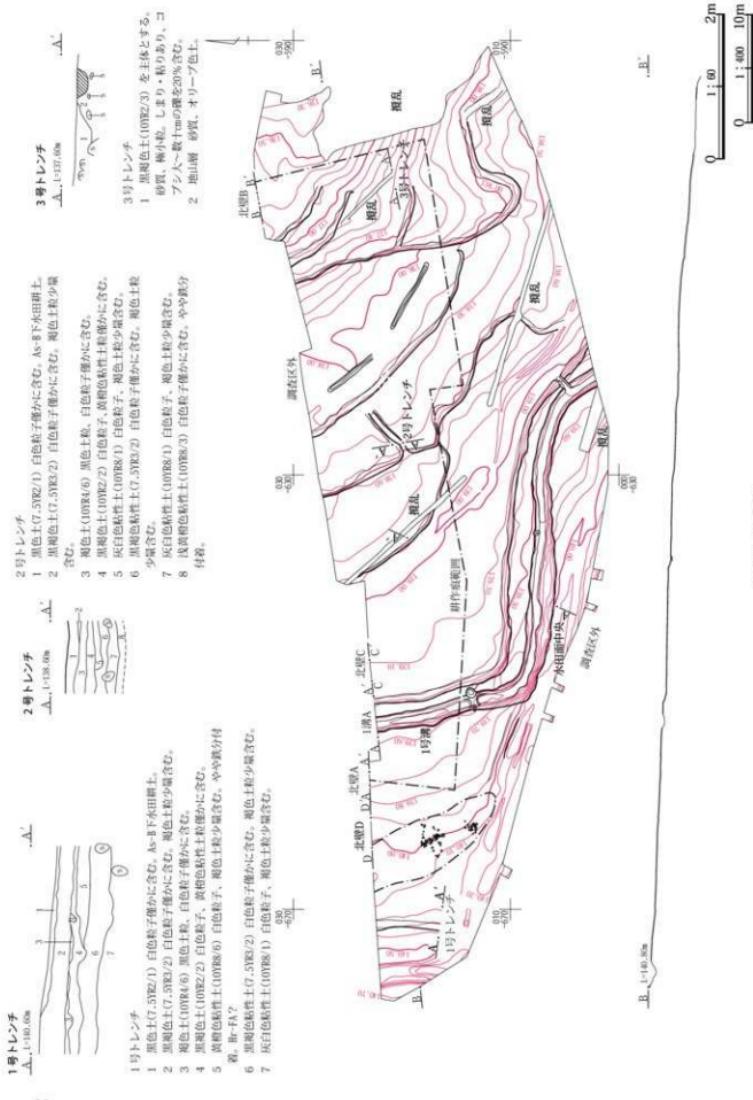
検出位置 X=40.011～40.034、Y=-81.599～-81.660、調査区北半から検出されている。なお図化された部分は検出範囲の西端に位置する。

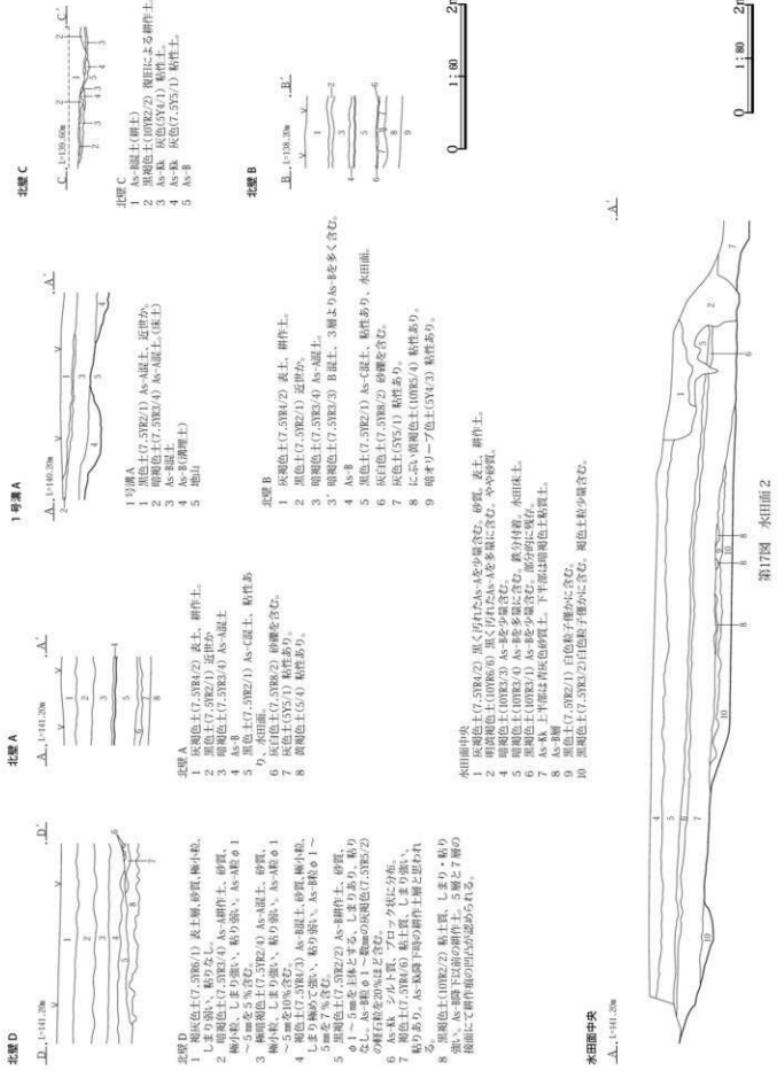
規模 $65.57 \times (11.66)\text{m}$

長軸方位(度) N-83-E



第15図 3号溝







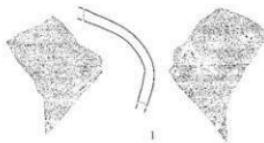
第18図 水田面 3(耕作痕)

第3節 出土遺物

1 遺構出土遺物(第19,20図、PL.11)

調査区から出土した遺物の量は多くはないが、旧石器時代の可能性を指摘される尖頭器(29)から近現代の製作地不詳磁器急須蓋までと幅広い時代の遺物が出土している。とはいっても、残念ながら遺構出土遺物とした資料も埋没土からの出土遺物であり、厳密な意味で出土地点を限定できる遺物は中世と推測される2号溝から出土した、遺構の帰属年代にはそぐわない磨製石斧(35)1点のみであり、出土遺物から出土遺構の帰属時期を限定するには至らなかった。調査区は当初、下流側である東側から1区・2区・3区と区分されていたが、国道寄りに位置し擾乱の著しい1区から出土した遺物は土師器2片と、中世の龍泉窯系磁器碗(27)1片の3点のみである。先述した尖頭器を含め、繩文時代の石器の6割・土器の8割が3区出土であり、その多くは南側の里見台地寄りに位置する2号溝出土遺物である。なおこの溝からは弥生後期の樽式土器(23)の破片も出土している。

1号溝

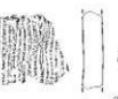


1

2号溝



2



3

3号溝



4

5

0 1:3 10cm

第19図 出土遺物 1

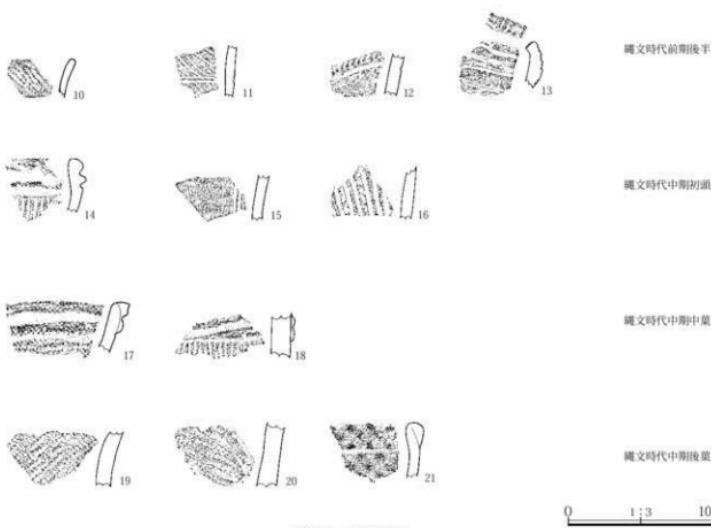


2 遺構外出土遺物(第21~23図、PL.11,12)

2号溝、3号溝出土の縄文土器、石器類は一括して遺構外遺物とした。また2区4pitと注記された須恵器片は、当該遺構が調査記録に見当たらないことから遺構外遺物とした。なお調査区全域がほぼ水田面に相当するので、表採・表土とされた遺物を除き2区、3区の取り上げとされた遺物を水田面出土遺物とみなすことも可能であるが、一括して遺構外出土遺物とした。

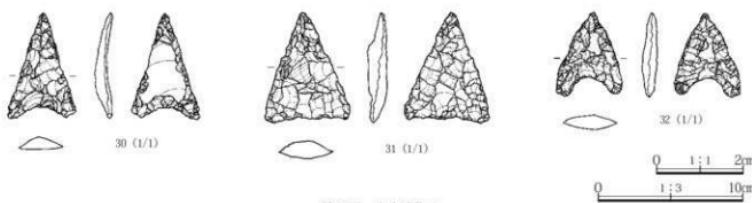
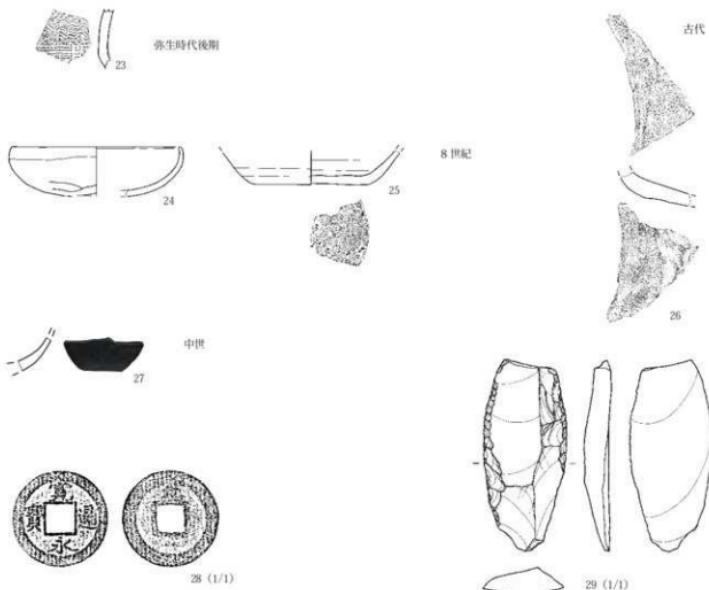
出土した縄文土器・弥生土器の8割は、調査区南辺に

位置する2号溝から出土している。縄文時代前期後半の諸磧式から後期初頭の称名寺式まで幅広く分布しているが、そのピークは縄文時代中期前半と推定される。土器片の分布状況を遺跡の在り様に当てはめれば、縄文時代前期後半からはじまり、中期中葉に最盛期を迎える一連の流れが予測される。なお隣接する下里見天神前遺跡から検出された竪穴建物は縄文時代中期後半とされており、これらに先行する遺構が本遺跡の上流側に存在した可能性がうかがえる。

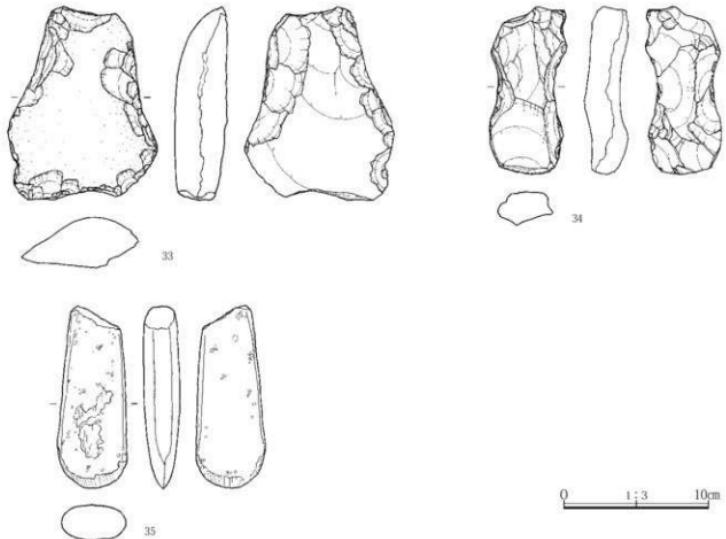




縄文時代後期初頭



第22図 出土遺物 4



第23図 出土遺物 5

第2表 遺物観察表

擇図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第19図 PL.11	1	須恵器 長颈瓶	3区1溝 胴部片		珪砂粒/還元焰/ 灰白	クロコ整形、回転は右回り。外面は回転ヘラナデ。	8世紀前半	
第19図 PL.11	2	灰釉陶器 長颈瓶	2区2溝 胴部上位片		珪砂粒/還元焰/ 灰オリーブ	クロコ整形、回転は右回り。外面は釉薬で不鮮明である がヘラナデか。内面はナデ。	10世紀代	
第19図 PL.11	3	埴輪 円筒小片	3区2溝 胴部小片		珪砂粒/良好/に ぶい褐色	外面は縱方向ハケメ(2cm当たり8本)、内面はナデ。 内外面とも磨滅している。	6世紀代	
第19図 PL.11	4	土器器 杯	2区3溝 口縁部~体部 片		珪砂粒/良好/明 赤褐	内斜口縁杯。口縁部は横ナデ、体部は表面剥離のため整 形不明。内面は体部に斜放射状ヘラミガキ。	5世紀後半	
第19図 PL.11	5	在地系土器 内耳鍋	2区3溝 口縁断片	口 底 一	白色粘土含む/に ぶい褐色	器表黒色。器壁厚く、口縁部は短い。口縁端部内面は棘 をなして尖る。	14世紀後半~ 15世紀初頭か	
第20図 PL.11	6	肥前磁器 染付皿	2区3溝 底部1/4	口 底 (7.2)	高 一	白	見込み五弁花コンニャク印判。高台内重圓輪内に不明 路。	17世紀末~ 18世紀
第20図 PL.11	7	瀬戸・美濃 陶器 底片	2区3溝 底部1/2	口 底 (4.9)	高 一	灰白	内曲面部で中央付近に蓮瓣紋。高台脇以下鉄化粧。	18世紀
第20図 PL.11	8	金属製品 釘	2区3溝 完形	長 幅 7.1 2.4	厚 重 0.6 7.1		端部から2cm程度のところで折り曲げられている。体部 はややねじりがあり、脚部の突りはやや丸い。	
第20図 PL.11	9	須恵器 有台杯	2区4溝 底片~体部片	底 7.0	珪砂粒/還元焰/ 灰白	クロコ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り、高台 は貼付が剥落。	8世紀前半	
第21図 PL.11	10	繩文土器 深鉢	3区~括 口縁部破片		珪砂、舞石、石 英/良好	口縁が縦外反。直繩文を横位施文する。	諸職a式	

掲図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21図 PL.11	11	圓文土器 深鉢	3区2溝覆土 側部破片				細砂、輝石/良好	横位平行沈線をめぐらして文様帯を区画、斜行する平行沈線を多条に施す。米字文か。	諸磯 a式
第21図 PL.11	12	圓文土器 浅鉢	3区2溝 側部破片				細砂、輝石/良好	連続爪形文を斜位に施文する。	諸磯 b式
第21図 PL.11	13	圓文土器 浅鉢	3区2溝 口縁部破片				細砂、輝石/良好	波状口縁で口縁内湾する。横位平行沈線を多段に施す。地文にRL圓文を施す。口唇部に刻みを付す。	諸磯 b式
第21図 PL.11	14	圓文土器 浅鉢	3区2溝覆土 口縁部破片				細砂、輝石/良好	口縁が緩く内湾。口縁下に横位跡帶をめぐらして口縁部文様帯を区画。内部に擬位沈線を充填施文する。	五箇ヶ台式
第21図 PL.11	15	圓文土器 浅鉢	3区2溝覆土 側部破片				細砂/良好	平行沈線。結節網文を擬位施文する。	五箇ヶ台式
第21図 PL.11	16	圓文土器 深鉢	3区2溝覆土 側部破片				細砂/良好	擬位平行沈線を多条に施す。	五箇ヶ台式
第21図 PL.11	17	圓文土器 浅鉢	3区2溝覆土 口縁部破片				細砂、輝石/良好	口縁外面を肥厚させ。横位沈線をめぐらす。肥厚部下にLR圓文を施す。	中前中葉
第21図 PL.11	18	圓文土器 浅鉢	3区2溝覆土 側部破片				細砂、白色粒、 輝石/良好	横位隙帶を貼付し、隙帶上に沈線をめぐらす。地文に無系文Rを擬位施文。	中前中葉
第21図 PL.11	19	圓文土器 浅鉢	3区2溝覆土 側部破片				細砂、白色粒、 輝石/良好	RL圓文を擬位施文する。	中前後葉
第21図 PL.11	20	圓文土器 浅鉢	3区2溝覆土 側部破片				細砂、赤色粒/良好	複数LRL圓文を擬位施文する。	中前後葉
第21図 PL.11	21	圓文土器 浅鉢	3区2溝覆土 口縁部破片				細砂、白色粒、 輝石/良好	口縁外表面を折り返し状に肥厚させる。無文。	中前後葉
第22図 PL.11	22	圓文土器 浅鉢	2区一括 口縁部破片				細砂、輝石/良好	波頭部の突起。波頭部内面に円形刺突。沈線を施す。	称名寺式
第22図 PL.11	23	弥生土器 甕	3区2溝 側部破片				細砂、輝石/良好	廉狀文、櫛引き波状文をめぐらす。	傳式
第22図 PL.12	24	土師器 杯	2区 口縁部～底部 小片	口 底	11.6 12.0		細砂粒/良好/に ふい相	口縁部は傾ナデ、体部は上半がナデ、下半と底部は手持ちハラ削り。	8世紀前半
第22図 PL.12	25	須恵器 杯	2区 底部～体部下 片	底	8.2		細砂粒/氧化塩/ 灰黄	クロコ形、回転は右回り。底部は磨面磨滅のため整形不鮮明ではあるが、回転ハラ削りか。	8世紀後半
第22図 PL.12	26	須恵器 甕	3区 底部下片				細砂粒/還元焰/ 灰白	内外面とも器面削減のため整形不鮮明。底部は内面にアテ具痕が残る。	時期不詳
第22図 PL.12	27	假泉室系青 磁碗	1区表土 体部片	口 底	— —	高 —	灰	残存部内外面無文。青磁釉に粗い貫入る。	14世紀～ 16世紀
第22図 PL.12	28	越賀 新窯永	2区一括 完形	外 内	2.247 1.730	厚 重	0.099 2.2		背元、面、背とともに明瞭。郭の一部にパリがやや残る。
第22図 PL.12	29	田石器 尖頭器	3区2溝	長 幅	44 19	厚 重	6 5.2	黒色頁岩	片面凹凸調整の尖頭器、薄手の擬長削片を素材、旧石器時代の石器の可能性がある。
第22図 PL.12	30	圓文石器 石鑿	2区2溝	長 幅	24 16	厚 重	3 0.8	チャート	凹基無茎、内湾した擬長削片を素材。
第22図 PL.12	31	圓文石器 石鑿	2区2溝	長 幅	25 20	厚 重	5 108	チャート	平基無茎、二等辺三角形に器体を整形。
第22図 PL.12	32	圓文石器 石鑿	3区2溝	長 幅	20 15	厚 重	3 0.7	黒曜石	凹基無茎、擬長削片を素材。
第22図 PL.12	33	圓文石器 石鑿	2区	長 幅	134 103	厚 重	35 547.4	細粒輝石安山岩	分厚い大型擬長削片を素材、左右両側縁に調整加工、下部に最大幅を持つ。
第23図 PL.12	34	圓文石器 打製石斧	3区2溝	長 幅	116 53	厚 重	25 191.6	黑色頁岩	分側面、先端刃部の作成が粗いため未成品の可能性もある。
第23図 PL.12	35	圓文石器 磨製石斧	3区2溝日清 No.1	長 幅	126 48	厚 重	25 244.6	輝緑岩	乳棒形、全面敲打で整形し、先端内面を研磨して刃部を作出。

第3表 未掲載石材集計

石材出土点数	道構名	黒曜石	黒色頁岩	珪質頁岩	黒色安山岩	結晶片岩	総計
	2号溝	10		1	1	1	13
	一括	2					2
	表探		1				1
	総計	12	1	1	1	1	16

道構名	道構名	黒曜石	黒色頁岩	珪質頁岩	黒色安山岩	結晶片岩	総計
	2号溝	4.8		30.5	66.4	385.9	487.6
	一括	1.1					1.1
	表探		143.8				143.8
	総計	5.9	143.8	30.5	66.4	385.9	632.5

第4表 未掲載遺物(縄文時代、弥生時代)

区	道構名	道構種	諸磯 a	諸磯 b	諸磯 c	五箇ヶ台	中期中墓	中期	称名寺	弥生(櫛)	不明	計
1		一括									1	1
2		一括					2		1		2	5
3		一括	1									1
	2号溝		1	2	1	5	8	9		3		29
	計		2	2	1	5	10	9	1	3	3	36

第5表 未掲載遺物(古代)

出土位置	土師器		須恵器	
	小	大	小	大
1区	一括		1片	2 g
2区	3溝	一括		
			1片	11 g
2区	4溝	一括		
				1片 15 g
2区		一括	1片 1 g	1片 24 g
			7片 13 g	1片 6 g
3区	2溝	一括	6片 29 g	30片 272 g
			4片 23 g	2片 7 g
3区		一括		4片 75 g
				1片 8 g

大小は想定器形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は高杯・小型壺など、大は甕・羽釜・壺など。
左 破片点数。右 破片重量

第6表 未掲載遺物(中世以降)

出土位置	種類	器種	残存	点数	重量	備考
2区3溝	瀬戸・美濃磁器か	すり鉢	口縁部片	1片	15 g	江戸時代
2区4溝	肥前磁器	染付皿?	体部片	1片	3 g	江戸時代
2区4溝	瀬戸・美濃陶器	船軸碗	体部片	1片	2 g	江戸時代
2区4溝	瀬戸・美濃磁器か	型紙刷碗	口縁部片	1片	5 g	近代
2区	肥前陶器	鉄輪組	口縁部片	1片	4 g	江戸時代
2区	製作地不詳磁器	急須蓋	口縁部片	1片	10 g	近現代

第4章まとめ

本遺跡で数面の耕作面が確認できたことは、前章に記載した。また2号溝に顕著であるが、溝を改修・補修しながら利用されてきた姿もうかがえる。本章ではこうした遺構の変遷につき検討を行う。

1号溝(第10,24図)

1号溝は調査区の中央付近に位置し、2段目のテラスの東端沿いに南流する、畦を作り水路である。その北端において1号溝はAs-B(基本土層4層)により埋没している。埋没土の直上にはAs-B混土層(基本土層3'層)が位置し、地山土は不明である。

調査区南辺寄りの中央部において、1号溝は白色粒子と褐色土粒を含む黒褐色土に覆われている。埋没土の直上にはAs-Kk層が位置し、地山土は不明である。

1号溝南端近くに位置する2号水口の埋没土は不明であるが、地山土は白色粒子を含む暗褐色土であり、その下位には白色粒子を含む黒褐色土が位置する。

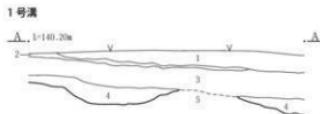
調査成果から確認できた1号溝の埋没状況を列挙した

が、南端と北端はともにAs-B(基本土層4層)により埋没した同時期の遺構面と考えられるが、中央部の遺構確認面は黒褐色土層下位でありAs-B降下時期よりも古い遺構面と考えられる。As-B降下時には既に埋没し、浅い痕跡として残存していたとも想像される。As-B降下後の復旧対策に伴い、残存していた溝と畦の痕跡は削平され、As-B降下時には1段高くなっていた溝東側(3段目のテラス)の水田面に加えられたと推測される。

1号溝は溝各部の底面標高を比較するといさか不都合な点が生じる。As-B直下の1号溝北端の底面標高は139.31m、2号水口の底面標高は139.28mである。これに対し1号溝中央部の埋没土である黒褐色土層の上面は標高139.62mであり、底面標高は139.42mである。いずれにしても両端より高くなっている。調査区北辺で確認できる1号溝上端の標高は139.55mなので、黒褐色土層堆積前であれば土地の傾斜なりに西から東への流れで支障はないが、埋没土堆積後は水の流れが逆転し、東から西に流れると仮定しないと取まらなくなる。As-B降下以前の時点で1号溝の水路としての機能は失われていたと考えられる。

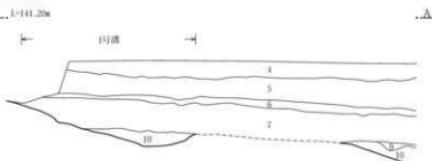
1号溝

- 1 黒色土(7.5R2/1) 近世か。As-Kk層上。
- 2 増褐色土(7.5R3/4) As-B混土(床土)。
- 3 As-B混土
- 4 As-B(1溝埋土上)
- 5 地山



調査区中央

- 4 増褐色土(10R3/3) As-Bを少量含む。
- 5 増褐色土(10R3/4) As-Bを多量に含む。鉄分付着。
- 6 黒褐色土(10R3/1) As-Bを少量含む。部分的に残存。
- 7 As Kk 上半部は青灰色砂質土。下半部は増褐色土粘質土。
- 9 黒色土(7.5R2/1) 白色粒子僅かに含む。
- 10 黒褐色土(7.5R3/2) 白色粒子僅かに含む。褐色土粒少量含む。



1号溝2号水口

- 1 増褐色土(7.5R3/3) 白色粒子を少量含む。やや粘性が強い。
- 2 にふる褐色土(7.5R5/3) 粘性が強い。(Rh-FA?)
- 3 黒褐色土(7.5R3/1) 白色粒子を僅かに含む。粘性が強い。



第24図 1号溝の埋没状況

2 2号溝(第11,25図)

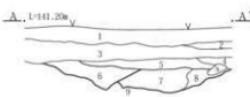
2号溝は調査区北西端の最上段テラスを調査区南西辺沿いに東流する水路であり、埋没土の相違から新旧2条に区分されることは前述した。鉄分付着する砂質の黄褐色土(2号溝6層)に覆われた新溝(2・2溝)と白色粒子を含み鉄分が付着したやや砂質の暗褐色土(2号溝7層)に覆われた旧溝(2・1溝)が一部重なりながら時期を異にして流れていたと考えられる。旧溝の地山土は白色粒子を含むや鉄分付着した黒褐色土(2号溝9層)であり、鉄分付着の有無の違いはあるが、1号溝中流部を埋めた黒褐色土層上位の暗褐色土層と類似する土と考えられる。

調査区南西辺の中央付近では新旧の溝は並走する位置関係にあるが、確認された範囲の両端では重複する位置関係となっている。また調査所見によると、並走が確認されている部分の旧溝西端(2号溝B断面と2号溝C断面の間)で、旧溝の流れは南西辺沿いから離れており、2段目テラスの西辺沿いに北西から南東に流れた痕跡が指摘されている。旧溝は調査区南西辺では新溝より北に位置し、調査区中央付近の1号溝と接する付近で新溝の流れと合流したと考えられる。旧溝はAs-B降下以前で、1号溝が使用されなくなった時点以降に2段目テラスの水路として機能したと推測される。

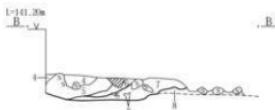
確認された2号溝東端付近の馬蹄痕は旧溝が水路としての機能を失い、その機能が新溝に移ってから残されたものと考えられる。調査所見によればこの馬蹄痕は1号溝埋没土の上に残された馬蹄痕と同一時期のものとされており、その直上にはAs-Kkが堆積している。近くとも1128年時点には旧溝も水路としての機能を失っていたと考えられる。

旧溝を埋めた埋没土(2号溝7層)が新溝の地山土となり、新溝の埋没土(2号溝6層)の上位にAs-B混土の水田床上とされる2号溝5層が位置することから、2号溝はAs-B降下後の遺構と判断されている。しかし上述した馬蹄痕を2号溝周辺での農耕作業に伴うものと仮定すれば、新溝はAs-Kk降下以前に既に水路として機能していたと考えられる。2号溝6層の堆積した時期を限定する資料にかけるため、新溝の埋没時期は特定できないが、As-Kk降下後と推測される。

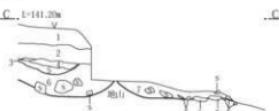
2号溝A



2号溝B



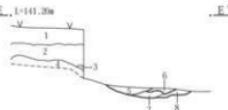
2号溝C



2号溝D



2号溝E



2号溝

- 1 表土、耕作土、砂質。
- 2 As-A混土。
- 3 As-K混土、水田床上、鉄分付着。
- 4 基As-B混土。
- 5 As-B混土、水田床上、鉄分付着。
- 6 黄褐色土(10YR5/6) 砂質、やや鉄分付着。
- 7 暗褐色土(10YR3/4) やや砂質、白色粒子少量含む。やや鉄分付着。
- 8 暗褐色土(10Y4/3) やや砂質、白色粒子僅かに含む。やや鉄分付着。
- 9 黑褐色土(10Y2/3) 白色粒子僅かに含む。やや鉄分付着。



第25図 2号溝の埋没状況

ところで、As-B混土である2号溝5層の堆積状況は2号溝の上流と中下流とでは様相が異なる。上流部(2号溝A断面)では2号溝の重複する新旧両溝の埋没面の上に広く堆積している。中流近くの新旧両溝が重複している2号溝B断面地点では、新溝埋没土を掘り込んだ弧状の溝を想起させる形で堆積している。またその下流の2号溝C断面以東では新溝の埋没土を地山とする溝のように堆積している。2号溝5層の堆積がAs-Kk後の水路を示唆するものと想像される。この2-3溝とも呼ぶべき遺構の中下流域はほぼ新溝と重複する。上流域である調査区西北端では2号溝5層の堆積する溝状の地形は観察されていないので、2-3溝は調査区南西辺の調査区外から調査区内に流れ込むように取りまわされたと考えられる。

3 水田面

本遺跡ではAs-A降下後に3層、As-A降下前に2層、As-B降下以前に1層の都合6層の耕作土層が確認され、各遺構の土層として記録されている。以下に順次抜き出し記載する。

- 1層 As-Aを少量含む砂質の灰褐色耕作土
- 2層 As-A多量に含むやや砂質の明黄褐色耕作土
- 3層 As-Aを多量に含む黄褐色土水田床土
- 5層 As-Bを多量に含む暗褐色水田床土
- 6層 As-Bを少量含む黒褐色復旧耕作土
- 9層 As-Cを含む黒色耕作土

このうち1層は表土であり、現代の耕作土である。調査所見に基づくなら9層がAs-B降下時の耕作面であり、10層下位がAs-B降下以前の最古期の遺構面となる。この他に、北壁D断面地点でAs-Kk降下時の耕作土とされる、粘土質の褐色土(北壁D7層)が確認されている。

水路と耕作面との対応関係をあえて推論するなら、最古期の耕作面に対応する水路が1号溝、9層に対応する水路が2-1溝と推測される。

部分的に検出されているという6層は、北壁C断面地点で確認されている、As-Kk降下後に復旧対策として整備された耕作面と推定されるが、この6層に対して用意された水路が、5層により埋没した2-3溝であろう。なお2-2溝はAs-B・As-Kkにより荒廃した耕作地の復旧対策として2-1溝の代替として整備された水路と思わ

れる。北壁D7層に対応する水路としては2-2溝が相当すると思われるが、開削時期はAs-B降下後にさかのぼる事も考えられる。

また3号溝は2層に埋没した遺構であり、対応する耕作面は3層とするのが妥当であるが、残された埋没状況からは5層上位に2層が位置している。4層が耕作面であった時に掘削され、3層が耕作面の時期まで維持されたとも考えられる。



第26図 基本土層と3号溝

報 告 書 抄 錄

書名ふりがな	しもさとみばんぱいせき
書名	下里見番場遺跡
副書名	下里見安中線(西毛広域幹線道路 高崎安中工区)社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	730
編著者名	佐藤元彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	令和15年9月28日
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	しもさとみばんぱいせき
遺跡名	下里見番場遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきししもさとみまち
遺跡所在地	群馬県高崎市下里見町地内
市町村コード	10202
遺跡番号	H128
北緯(世界測地系)	362126
東経(世界測地系)	1385525
調査期間	20230201-20230331
調査面積	2789.08
調査原因	道路建設
種別	生産
主な時代	平安
遺跡概要	平安一溝1+水田5／中世一溝1／近世一溝1
特記事項	平安時代から近世に至る水田が確認された。
要約	榛名山南麓、烏川右岸の下位段丘面の水田遺構。